

孤立化と崩壊の危機：1989年の朝鮮民主主義人民共和国

著者	玉城 素
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	アジア動向年報
雑誌名	アジア動向年報 1990年版
ページ	[63]-104
発行年	1990
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00002099

朝鮮民主主義人民共和国

朝鮮民主主義人民共和国

面積 12万538km²

人口 2190万人 (1988年央, 国連推計)

首都 ピョンヤン (平壤)

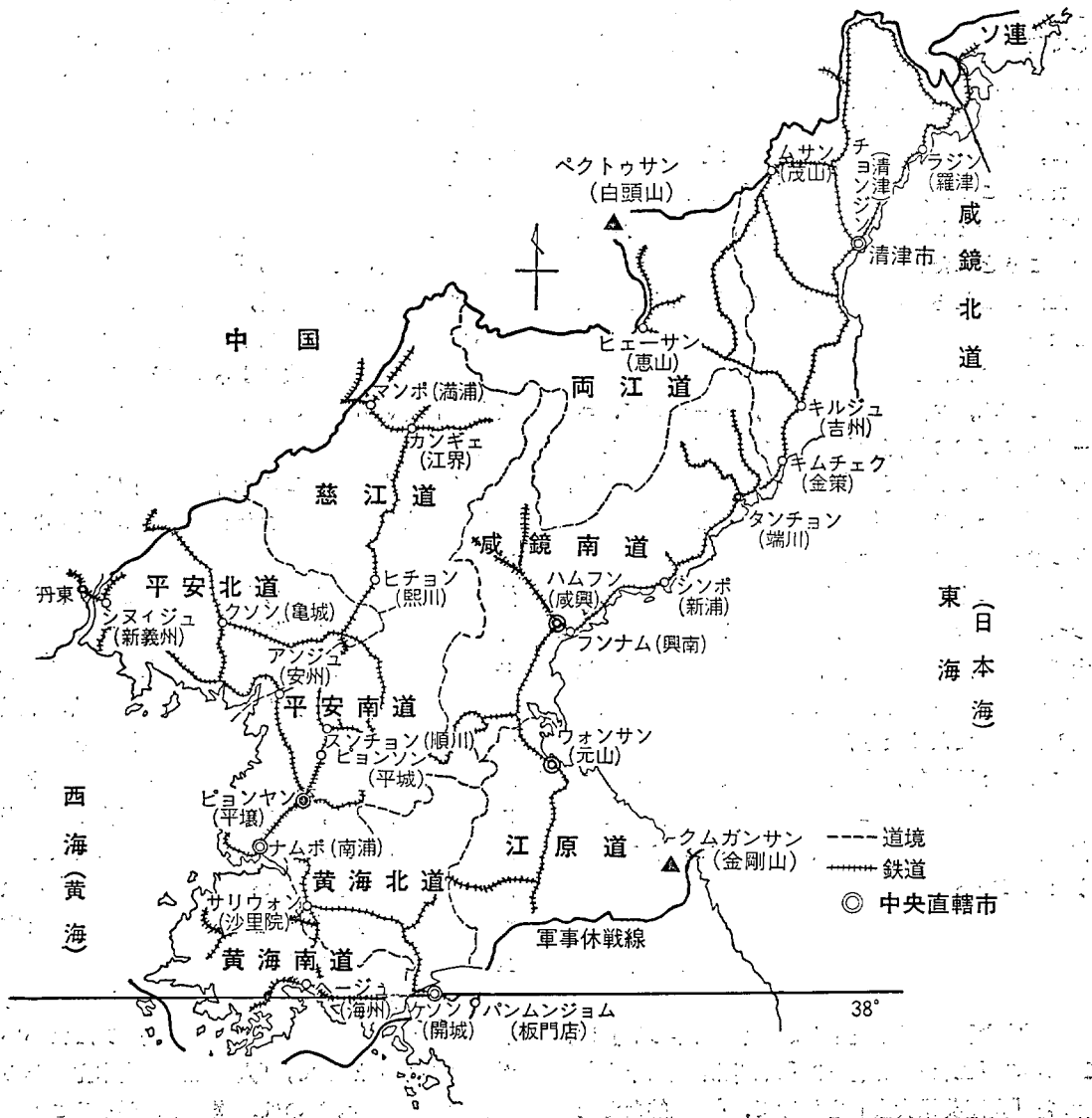
言語 朝鮮語

政体 社会主義共和制

元首 金日成 (共和国) 主席

通貨 ウォン (旅行者レート: 1米ドル=2.22ウォン)

会計年度 歴年に同じ



1989年の朝鮮民主主義人民共和国

孤立化と崩壊の危機

玉 城 素

朝鮮民主主義人民共和国は1989年のこの年、7月の第13回世界青年学生祭をソウル・オリンピックを圧倒する国際行事にすべく、全力をあげた。祭典都市・平壤建設に国力をこえる巨費と力を注ぎ込み、国際活動を展開した。また、これに並行して対南統一攻勢をも激化させ、財界人、牧師、神父、学生らを個人的に入北させ、かれらを通じて北の統一政策の正統性を支持・煽動させるとともに、南政権の危機を誘発しようとした。

また、この祭典の成功を通じて、金正日書記の世襲後継者としての基盤を確立し、政権移行の道を開こうとした。

だが、これらの努力はかえって裏目に出る結果となる。

国際的には、この祭典を境に北朝鮮の孤立化が急速に進み、ソ連の対韓国接近、ポーランド、ユーゴスラビアの韓国承認・国交樹立が実現する。しかも年末にかけての東欧社会主義諸国の激動は、北朝鮮のチュチェ型社会主義路線にも深刻な挑戦をつきつけることとなる。

経済的にも、祭典の後遺症は重大なものとなりつつある。生産全般の低落はもとより、近年の巨大設備・施設建設への集中動員方式によって、生産基盤の全般的な老朽化と荒廃が進み、その立て直しは容易でなくなった。

こういう政治的、経済的行きづまりをもっぱら思想闘争・思想教育による締めつけと動員の再強化、経済関係閣僚の更迭人事によって切り抜けようとしている。

政 治

●膨大な課題設定 金日成主席「新年の辞」は、1988年の「二百日戦闘」や「共和国創建四十周年行事」「全国英雄大会」を挙げて、「英雄的なたた

かいと偉勲でつづられた過ぐる一年」と総括した。そして「今年、われわれの前には、高まる革命的氣勢を引き続き堅持して思想、技術、文化の三大革命をさらに力強く推し進め、社会主義大進軍の運動を積極的に進めることでわが国の社会主義制度の優越性を全面的に発揮させる、という栄えある課題が提起されています」という勇ましい課題設定をした。経済課題について詳しくは後述するが、とくに89年を「軽工業の年」と定めるとともに、重要建設対象の繰り上げ建設を強調し、第13回世界青年学生祭の準備を万全にすることなどを列記した。そのため自ら「今年、われわれの前に提起された課題は、全党、全国、全人民が立ち上がって遂行すべき膨大な革命課題」とまとめ、「革命課題は革命的な方法によってのみ成功裏に遂行できる」といっそうの革命化を訴えねばならなかった。

とくに対南関係でこの「新年の辞」は、「南朝鮮情勢で重大な変化が起きた」と強調し、「今年は必ず国の平和を保障し、平和統一を早めるうえで実質的な前進を達成しなければなりません」として、「近い時期に平壤で、北と南の各党、各派、各界各層の意志を代表しうる指導級人士で南北政治協商会議を開催しよう」と提案、南の民正党、平民党、統一民主党、新民主共和党の各総裁と金寿煥枢機卿、文益煥牧師、在野運動家・白基玩を平壤に招請した。だが、ここではあくまで南の政権当局を対象から外し、「平壤」の指導権のもとでの協商方式を露骨に示している。これは後段の『「二つの朝鮮」でっち上げ策動 反対闘争の強調と完全に見合うものである。

「新年の辞」の最後の国際情勢部分は、「進歩と反動」「社会主義諸国と帝国主義者」のたたかいが基本であるとして、「人類社会が資本主義から社会主義に発展するのは、歴史のたがえることの

ない法則」「社会主義が……全世界的な範囲で完全に勝利するのは疑う余地がありません」と規定し、北朝鮮自身は「平和と社会主義の東方の哨所をしっかりと守っていく」と宣言する。また、国際的勢力としては非同盟運動をもっとも重視する姿勢を示している。

年前半には、第13回世界青年学生祭の準備活動に全力を投入しつつ、国内政治的には金正日書記の権威確立キャンペーンに熱中し、対南的には南の各界人士を個別に北に招致することを軸に統一攻勢を積極化することに政策重点が置かれた。

●**祭典準備と難関** 第13回世界青年学生祭の準備は、国内的には膨大な祭典都市・平壤建設として遂行される（『経済』の項参照）と同時に、活発な国際工作として展開された。社会主義諸国はもとより、アジア、中東、アフリカ、中南米の発展途上諸国へも多くの代表团や特使が派遣され、祭典参加を求めた。ソ連、中国をはじめ社会主義諸国に対しては自費による行事参加だけでなく、物的・技術的支援も要請したが、それははかばかしく進展しなかった。ソ連はさすがに、この行事の創始国であり、今回行事の平壤開催を推進した責任もあって、人的な協力とノウハウ提供の面では積極的だったが、資金や物資の面での支援はさほどなかったようである。また、中国は国内事情からもこの行事に対してしばらく消極的であり、趙紫陽総書記訪朝（4月末）のさいに食料援助を約束したといわれるが、それも天安門事件によって頓挫した。ただ、同事件の「暴徒鎮圧」に朝鮮側がいち早く支持態度を表明したことにより、人員参加の面で積極さを示したのである。

これらとは逆に、発展途上諸国に対しては、人員参加についても朝鮮側が交通・滞在費用を負担し、ある場合には経済・技術支援も提供して、招致をはからざるをえなかった。これは、大変な財政負担となった。

結局、こうした窮地を打開するために、在日同胞社会に大幅な支援を求めることとなる。資金・資材・技術等の面でもだが、直接祭典行事を円滑に運営するための飲食施設や自動車修理施設への材料、用具持参での日本からの大量参加が実現したので、ようやく体面を保つことができた。

●**金書記後継者化工作の激化** 世界青年学生祭の準備と成功は、初めから金正日書記の輝かしい功績として設定されていた。したがって、この準備工作と並行して、金書記の権威を増大させるキャンペーンが激しく展開される。

その正攻法の展開は、金書記文献を金主席文献とほぼ同格に権威づけ、聖典化しようとする動きである。5月5日に、1988年10月12日に金書記が党中央委責任活動家と行なった談話「現時代と青年の任務」を『労働新聞』が全文掲載して、世界青年学生祭用の基本指導理念化しようとしたのが、その象徴的な表われである。それだけでなく、金書記文献・指導を讀える行事やキャンペーンが前面に出て連続的に行なわれ始めた。

たとえば、上半期だけでも以下のものがある。

1月25日：金書記の「青年科学技術進軍」課題貫徹のための全国青年熱誠者会議。

2月10日：党の思想理論の偉大さに関する社会科学者の討論会。

2月18日：『労働新聞』論説「全社会のチュチュ思想化綱領は勝利の旗じるし」で金書記の1974年2月19日文献を賛美。

2月19日：『労働新聞』社説「党思想教育活動をさらに深化発展させよう」で、金書記文献を「不滅の戦闘的旗じるし」と指摘。

2月21日：金書記の名作に関する中央研究討論会。

2月24日：金書記文献「演劇芸術について」中央研究討論会。

2月27日報道で：各道・市・郡人民会議が最近、金書記文献「人民生活をさらに高めることについて」の執行状況総括を討議。

3月18日：『労働新聞』論説「郡の位置と役割問題に科学的な解答を与えた文献」、金書記文献発表25周年。

3月19日：『労働新聞』論説「真の主体型の共産主義革命家育成の指針」金書記文献発表10周年を記念。

3月30日：金書記文献「チュチュ哲学の理解で提起される若干の問題について」発表15周年記念中央研究討論会。

4月7日：『労働新聞』論説「革命的領袖観確立の根本要求」、金書記文献を礼讃。

4月12日：チュチェの革命的領袖観に関する社会科学者討論会。金書記を礼讃。

4月18日：学校スポーツ専門化・大衆化方針15周年報告会。金書記の74年指導方針を記念。

4月25日：中央科学技術祭開幕、李資方国家科学技術委員長報告で金書記のエネルギーな指導を強調。

4月27日：金書記文献「党の指導体系を徹底的に確立するために」発表10周年中央研究討論会。

5月4日：金書記文献「主体的出版報道物の基本任務」発表15周年出版報道部門研究討論会。

5月5～6日：職総中央委第17会総会、金書記の72年文献と84年文献の執行状況総括を討議。

5月25日：平壤市青年学生決起集会、金書記「現時代と青年の任務」課題貫徹のため（以後、各地で開催）。

5月31日：「現時代と青年の任務」中央研究討論会。

6月10日：革命的党建設で達成した党の業績研究討論会。金書記業績を討議。

6月13日：社会主義建設で達成した党の業績に対する経済建設部門研究討論会。

6月15日：党の偉大さと革命業績に関する中央研究討論会。「金書記は非凡な英知と卓越した指導でチュチェ祖国を輝かす偉大な指導者」。

6月27日：『労働新聞』論説「青少年の革命継承者育成事業が立派に解決」。

これらのうち、1989になって新しく登場してきたのは、各ジャンル別の「業績研究討論会」である。これは、これまでに乏しいと見られていた金書記の業績を、ここへきて何とか形あるものにまとめ上げようとの苦心の表われである。金書記の後継者化を急ぎたいという焦りが出てきている。

またこれに並行して、金書記の神格化作業も一段とエスカレートする。その中心は、金書記誕生の地とされた白頭山密営地の革命聖地化作業であり、またその拡大として全国的に展開されはじめた革命スローガン樹木など革命遺跡の「発見・発掘」運動である。白頭山密営地は金日成主席が1940年代に抗日武装闘争の根拠地にし、特に金正日書記もここで42年に誕生したということで、聖地化に拍車がかけられている。抗日部隊が当時樹木の皮を削って革命スローガンを書きつけたあと

というのが、その実在性を証明する証拠物として、はじめは密営地記念施設の一部に「発見・保存」措置がとられた。88年後半から、スローガン樹木発見運動が、それ以外の地域にまで及ぼされはじめ、89年5月以降になると、北部国境地帯から次第に南下して全道各地にいきわたっていく。早くも2月16日の金書記誕生日直前には、北部樹林地帯で3000本を超す多数のスローガン樹木が発見されたが、そのなかに金主席だけでなく、金書記本人とその生母金正淑女史を讃えるスローガンまで多く発見されたと報道され、以後金書記・金女史礼讃スローガンの発見が続々伝えられていく。この全くの荒唐無稽ぶりは、金書記神格化の材料をいかにつくり出していかかという苦心惨憺ぶりを表わしている。

このほか、金正日花の普及運動とか1988年に「金日峰」と斜面に刻字した同山への踏査運動などが全国的に展開されて、金書記の権威づけに大童となった。

●対南対話攻勢と革命攻勢 「新年の辞」の民族協商会議提案を軸とする、各種対話チャンネルを通じての公式対話推進だけでなく、協商会議方式のベースである各界代表人士交流の工作が活発化する。とくに、文化、学術、宗教団体レベルのよびかけが頻繁化し、そのレベルで南の各界人士への一本釣り型の招致工作が激化した。

最初、南財界の雄「現代グループ」総帥鄭周永を故郷訪問という形で招待し、金剛山の共同開発とか、合作事業の推進について話し合いを進めた。この鄭周永訪北は韓国政府の承認を受けたものであり、経済合作の性格を持つものだったから、南にも大きな影響を及ぼした。一時は、韓国経済界にも「北フィーバー」の気運が生じるほどであった。

だが、次に3月末文益煥牧師一行を平壤に迎えて、金日成主席以下が熱烈歓迎したところから、その利用主義が表面化してくる。その後も作家黄哲暎、文奎鉉神父（在米）、林秀卿嬢などを次々に平壤に招致して、北の統一政策のスポークスマン役をさせるに及んで、その工作方式は韓国側の国民感情と国益を逆無ですることになる。

こうして韓国側が対北態度を硬化させ、文牧師

を逮捕するなど北への支持・同調運動への取り組みを強めると、逆に北側はこれを盧泰愚政権のファッション的・反統一的・反民族的な措置として激しく攻撃・糾弾するという挑発的手法を展開していく。

世界青年学生祭の準備が慌ただしくなるにつれて、盧政権に対する攻撃・糾弾は日とともに激化し、その打倒への呼びかけは高い調子になっていく。とくに対南工作エージェントの性格を持つ「韓国民族民主戦線」（韓民戦）のアピールは、急激に煽動的となった。4月13日の、盧泰愚退陣・挙族的連帯共同闘争を訴える「時局宣言」に始まり、4月19日の青年学生に対する檄文は「四・一九人民蜂起」（1960年、李承晩政権打倒学生蜂起）を記念して、青年学生が「たいまつを掲げ四・一九の広場に進出」して「盧泰愚軍政を清算する第二の六月抗争の局面」をもたらすよう訴えた。5月15日の「光州人民蜂起9周年」檄文では、全斗煥の拘束と盧泰愚の「国民の審判台」への引きずり出しを訴えている。

しかも、これら韓民戦の訴えを裏づけるかのように、3月17日には、朝鮮労働党出版社が金主席の歴史的演説という「武装闘争を展開するための革命勢力の準備を十分に整えよう」（1931年5月14日、未発表）を出版、4月24日の人民軍創建57周年記念中央報告大会での崔光総参謀長演説は「全人民と人民軍軍人がいつにもまして緊張し、動員の態勢を堅持して革命力量を各面から強化する」よう訴えている。

つまり、国内での世界青年学生祭典への盛り上げと呼応して、南でも革命の大事変が急速に実現していくことの期待を込めて、切迫感をもってアピールし続けたのである。

なかでも、南の青年学生の祭典参加を実現しようとする工作が祭典準備事業中でも重要焦点とされた。準備委員会が南の急進学生組織「全大協」との南北学生会談実現を熱心に推進し、これを阻止した南当局を「民族反逆者」「統一妨害者」として熱狂的に糾弾するキャンペーンが展開された。こうして、わずかに外国経由で1人だけ参加した林秀卿学生を「統一の花」として熱烈歓迎するフォーバーを盛り上げていく。

●外部環境の激動と平壤祭典 7月1日から8日まで第13回世界青年学生祭が平壤で盛大に開催された。公式発表では世界180カ国、60機構から代表团・代表など1万5000人が参加し、この祭典史上初めてといわれる華麗・多彩な行事を展開した。数字的にはまさに前年のソウル・オリンピックを上回るものとして喧伝され、演出的な華やかさを誇示した。

だが、その前後から外部環境に大きな変化が生じつつあった。2月にハンガリーが韓国との国交を樹立したのを初めとして、東欧社会主義諸国が続々と対韓接近を開始し、ソ連、中国も経済・文化面でという限定付きながらも韓国と緊密な関係をもち始めていた。さらに、ポーランド、ハンガリーでは政治改革の動向がエスカレートして、一党独裁体制の崩壊が進んだ。祭典直前には中国で激動が生じる。4月24～29日に訪朝した趙紫陽党総書記は帰国すると早々に失脚し、6月には天安門の「暴乱鎮圧」が世界をゆるがす。これに対して、朝鮮側はアメリカの対中国制裁措置を非難する形で、中国当局支持の態度を明らかにし、中国もこれに応じて共産主義青年団代表300人を祭典に送り込む。

こうして大きく変わり始めていた外部環境は、祭典後に激動的な転回をとげる。東欧諸国を襲った「改革の嵐」は、ポーランド、ハンガリーの域を越えて、東ドイツ、ブルガリア、チェコスロバキアへ波及し、かつての金主席の盟友ホーネッカー、ジフコフ、フサークらが次々に失脚していくこととなる。その波は、年末ついにルーマニアにまで及んでいくこととなる。

またソ連は、祭典後にむしろ肩の荷を下ろしたかのように、対韓接近をおおびらに遂行しはじめた。特に公式刊行物で対韓国交の合理性を唱える議論を登場させ、また朝鮮からの亡命者に朝鮮戦争の真相暴露をさせるなどの、動きが目立つ。9月にソウルでオリンピック1周年を記念して開催された「民族体育大会」を中心とする祝祭行事前後には、カピッツェ前外務次官、アルバトフ・アメリカ・カナダ研究所長などの有力者や、亡命朝鮮人を多数送り込んで親近感を深めさせている。これは、双方の貿易代表部内に領事事務所を置くという事実上の外交関係への道を開くレベルに発

展した。

こうした事態は、社会主義陣営の「東の哨所」を自称し、あくまで「二つの朝鮮」絶対否認を友邦に求める北朝鮮にとっては、大きな打撃となった。また、東欧諸国の激動の深化にともなう、チェコスロバキア、ハンガリー、東ドイツ等で朝鮮留学生の南への亡命事件が続出してきた。これら留学生は北朝鮮社会では最高のエリート階層に属し、将来を期待される存在であるから、かれらが青年学生祭前後に南に亡命するということは、体制の危機にもつながりかねない。

こうした国際的孤立化傾向を開くため、祭典後に中国との友好関係の強化を急速に推進する。そして11月5～7日には、金主席がみずから北京を非公式訪問し、政治原則を守ることで合意する。

だが同じ11月には、韓国はポーランドと国交樹立、ユーゴスラビアとの国交も正式決定している。

つまり、世界青年学生祭典で大いに発揮したつものの「社会主義の優位性」「チュチェ朝鮮の国威」が、むしろ祭典後に急速に崩壊するという皮肉な結果が表われたのである。

●思想教育と政治統制の強化 祭典の終了直後には、この大行事の「成功」に酔ったかのように、後継者問題を日程に乗せるキャンペーンが登場してくる。たとえば7月16日の『労働新聞』論説「党の地位と役割に関する理論の大きな生命力」は次のように力説した。

「人民大衆の自主性を実現するうえで根本問題は、それを正しく継承することである。党の本性から出発して党の偉業を継承するうえで基本は政治的領袖の地位と役割を継承することである。

歴史的経験は、労働者階級の党が革命に限りなく忠実で、全社会に対する政治指導を円滑に実現する品格と資質を備えた人民の指導者を領袖に推戴してこそ、困難で複雑な情勢がつくり出されても動揺や曲折することなく党の偉業を固守し継承発展させられることを示している」。

これはまわりくどい表現であるが、「政治的領袖の地位と役割」を、資格ある指導者の「推戴」によって継承発展させようと唱えているものだ。

『労働新聞』は、8月1日にも「党の指導強化は革命勝利の決定的保証」という論説を発表し、党の指導強化は「何よりも思想と指導の唯一性を一

貫して継承し領袖の意図どおりに革命を前進させるための確固とした保証である」と訴えた。

だが、8月半ば以降になると危機感が表面化してくる。とくに同月17日付の平壤放送論説「チュチェの血統を擁護、固守し輝かせていくわが党」は「党の血統はあらゆる異色の反革命的な諸要素との闘争のなかでその純潔性が守られる」とし、「親愛な金正日同志は全党的な闘争によって、わが党の血統を濁らせようとしていたあらゆる異色の思想潮流を克服、清算するようにさせ、チュチェの血統の純潔性を徹底的に守った」と異様な賞賛を捧げた。これは、当時なんらかの形で金書記に対する不満と批判の潮流が台頭してきたことを暗示している。

これはさらに激しい「思想教育活動」強化のキャンペーンに引き継がれていく。これは大きな難関が生じてきたことを認めただけで、それを「社会主義に反対する帝国主義者の悪らつな策謀」がかつてなく強まっているためと主張し、それを克服するための基本方式として「思想教育」を提起するものであった。

●年末段階での危機対策 この思想教育キャンペーンは、年末に至るまでひんばんに積み重ねられ、日を追って切迫した調子を帯びてくる。

その主要テーマは、ブルジョア的な腐敗思想の侵入を防止するために、党の唯一思想（主体思想）で人民、とくに青年を教育することの重要性ということである。しかも、そこでは北朝鮮が他の社会主義諸国と違って、領袖・党と人民が一心同体化していることが強調される。また、10月以降東欧社会主義諸国の激動が進行するにつれて、「社会主義の歴史的優位性」「社会主義が必ず勝利するとの必勝の信念」「多元・多党主義はブルジョア的」等々の理念教育の重要性が叫ばれてくる。

こうしたキャンペーンを具体化する行事として11月19日に「道・市・郡人民会議代議員選挙」が施行された。この選挙は、従来のスターリン型一党独裁選挙方式を踏襲したもので、候補者推薦事業から投票にいたるまで、完全に思想・政治統制の強化をめざす形で行なわれた。候補者推薦会議では「金主席と金書記に忠実で、祖国と人民、朝鮮革命のためすべてを捧げて献身的に働く労働者、

農民、勤労者」を推薦し、投票率99.73%、賛成率100%で2万9535人の代議員を選出するという成果を誇った。『労働新聞』はこの結果を「党と主席を中心に一つの社会政治的生命体をなす朝鮮人民の不敗の威力と社会主義制度の優位性を改めて示した」と表現する。これも「思想教育」事業の重要な一環となったのである。

こうした「思想教育」は、当時東欧社会主義諸国を襲っていた体制変革（一党独裁型社会主義体制からの離脱）の嵐に対抗するものであり、12月2～3日に開催される米ソ首脳マルタ会談に対する強硬な意思表示の意義もあった。

12月に入ると、思想教育用教材ともいべき文献が次々に登場する。同月4日には、金正日書記が10月26日にキューバ共産党機関紙『グランマ』社長の質問に答えた回答が全文発表された。6日には1958年の金日成主席労作「共産主義教育について」、15日には61年の主席労作「新しい経済管理体系について」、25日には55年の主席労作「党员の間で階級教育事業をさらに強化するために」を、『労働新聞』が全文再録発表する。

このうちとくに3本目の労作「階級教育事業強化」論は、次の文章を含んでいる。

「党は南北朝鮮のすべての愛国的民主主義勢力をわが党と共和国政府のまわりに集結させて、広範な人民大衆から反動勢力を孤立させ、人民大衆を共和国北半部の人民民主主義を支持し、アメリカ帝国主義と李承晩売国集団に反対する決定的な闘争に決起させるべきであります。そして朝鮮革命の源泉地である共和国北半部の民主基地を政治・経済・軍事的にさらに強化発展させて、それをわが国の統一独立を獲得するための決定的な力量に変えるべきであります」。

これは、朝鮮労働党＝金日成の基本テーゼである「基地路線」の再確認であり、あくまでこの路線は変更しないという意思表示である。

だが、年末にいたってルーマニアで人民蜂起によるチャウシェスク政権の転覆という事態が起こった時の北朝鮮の態度は奇妙なことになった。それまでの東欧諸国やソ連内バルト3国、アゼルバイジャン、グルジア、ウクライナ等の事態を無視していた態度を豹変させて、12月24日にはチミショアラの虐殺事件以後のルーマニア事態を報道し

始める。26日には前日のチャウシェスク大統領夫妻の処刑まで報道しただけでなく、外交部スポークスマン声明で逸早く同国「救国戦線評議会」政権を承認し、翌27日には金主席がイリエスク同戦線新議長に、延享黙総理はロマン新首相に祝電を送る。29日には、朝鮮赤十字会中央委員会がルーマニアに負傷者医療のため15万ドルの援護金を送るという異様な手回しのよさを見せた。30日には、金主席がチェコスロバキアで新大統領に選出されたハベル氏に祝電を送っている。

これらの動きは、東欧の新事態をも「自主化」の論理で容認することによって、自国の「自主性」を保持しようとする際どこに北朝鮮が到達したことを示している。

●主要国家機関・人事異動 この1年間に、政務院の機構改革と党・政務院人事の異動は次のとおりである。

1月19日：政務院に「都市経営部」新設。

4月5日：朱榮勲を政務院建材工業部長に任命。

4月18日：姜希源を政務院副総理に任命。

6月9日：党中央委第6期第16回総会で、李勇武を中央委員に、張成沢、李奉益、金昌浩、金泳国、車容鎮、金鶴燮を中央委員候補に、韓章根を中央検査委員に選出。

6月17日：李鉄奉（元社会安全部長）を政務院都市経営部長に任命。

6月28日：辺英立政務院教育委員長を解任、崔基龍を後任委員長に任命。

8月24日：政務院に「地方工業部」新設、金成求を部長に任命。

10月18日：趙世雄政務院副総理を転任に伴い解任。

10月25日：金昌周政務院農業委員長を解任、白範寿を後任委員長に任命。

11月4日：李弼成政務院中央資材連合商社社長を解任。後任社長に蔡圭彬を任命。

この機構改革、人事異動で目立っているのは、政務院の経済関係部門の新設や、異動が頻繁だったことである。とくに、平壤祭典の終了後に工業担当と見られる趙世雄副総理や、金昌周農業委員長、李弼成中央資材連合商社社長など、政務院の中心的経済部門の担当者が更迭されている。これは、

経済立て直し努力の一環をなすものと見られる。

党人事では1977年頃粛清されたと見なされていた李勇武元人民軍総政治局長・党政治委員が中央委員に復帰したことが注目される。とくに軍関係では88年の崔光総参謀長、全文燮人民武力部副部長の就任など古参幹部の復帰傾向が目立っているが、今回の李勇武復活もこれに続いて、軍内での古参指導層の比重増大を示す指標かも知れない。

経 済

●祭典準備建設の重荷 1989年は第3次7カ年計画の3年目であり、その達成の基礎づくりを完了すべき時期に当たっていた。だが、これは当初から大きな難関にぶつかった。金主席の「新年の辞」でも、前回と同様に前年の生産成果については全く触れることなくただ「二百日戦闘」を中心とする大建設の進展を誇示するのみにとどまった。そして、89年度課題としては、(1)工作機械工業と電子・自動化工業の急速発展、(2)89年を「軽工業の年」とし、軽工業工場の現代化とフル稼働、(3)基本建設の継続・強力推進、(4)農村技術革命の推進、(5)第13回世界青年学生祭の準備という5項目を提起し、これを「膨大な革命課題」として設定したのである。

4月7～8日に開催された最高人民会議第8期第5回会議で採択された「1988年度国家予算執行の決算と89年度予算」(尹基貞財政部長報告)も基本的に主席「新年の辞」の踏襲であり、その予算化であった。この国家財政報告の計数部分をやや週

表1 財政規模の推移(1986～89年)

	金額(万ウォン)	対前年決算比(%)
1986決算歳入	2,853,850	104.0
歳出	2,839,610	103.9
1987予算歳入	3,030,780	106.2
歳出	3,030,780	106.7
1987決算歳入	3,033,720	106.3
歳出	3,008,510	105.9
1988予算歳入	3,185,210	105.0
歳出	3,185,210	105.9
1988決算歳入	3,190,580	105.2
歳出	3,166,090	105.2
1989予算歳入	3,355,070	105.2
歳出	3,355,070	106.0

表2 財政支出の費目別推移(対前年比%)

	1986決算	1987予算	1987決算	1988予算	1988決算	1989予算
人民経済支出	105.6	107.3	107.3	107.0	106.5	106.1
工業建設投資	—	108.6	109.1	111.0	—	109.0
電力工業	—	110.5	—	—	—	108.0
動力基地	—	—	—	115.2	—	—
採掘工業	—	108.0	—	—	—	108.0
金属工業	—	109.1	—	—	—	108.0
機械工業	—	110.0	—	—	—	116.0
化学工業	240.0	120.0	—	—	140.0	—
化学・軽金属基地	—	—	150.0	122.4	—	—
軽工業・水産	117.3	—	—	—	140.0	—
軽工業	—	105.0	—	—	—	113.0
水産業	—	—	—	107.5	—	—
農業	120.0	106.0	108.9	108.0	—	107.0
干拓	—	108.2	—	—	—	—
交通運輸	—	(多額)*	—	107.4	120.0	(はるかに増)*
科学技術	130.0	121.5	132.0	140.0	135.0	(大幅増)*
社会文化	102.0	—	—	106.2	105.5	106.1
教育	—	105.8	105.8	—	105.2	—
文化	—	102.1	101.0	—	—	—
保健	—	106.5	104.3	—	105.6	—

(注) *数字の発表はなく、カッコ内のように表現されている。

表3 国防費支出の推移(対前年比は決算比)

年 次	対総額比 (%)	金 額 (万ウォン)	対前年比 (%)
1986決算	14.0	397,545	100.1
1987予算	13.8	418,248	105.2
1987決算	13.2	397,123	99.9
1988予算	12.2	385,410	97.1
1988決算	12.2	386,263	100.2
1989予算	12.1	405,963	105.1

表4 地方予算の推移

(収入・支出は対前年比%, 国家へ納入は万ウォン)

	収 入	支 出	国家へ納入
1987予算	110.0	109.8	
1987決算	(計画比103.5)		
1988予算	103.1	110.9	
1988決算	103.0	104.3	87,820
1989予算	104.0	107.0	81,828

って比較・総括すると表1のようになる。財政規模でいうとここ数年間、まったく伸びが低滞していることが明瞭で、これは経済活動全体の低迷を反映している。

表2の部門別投資を見ても、「工業建設」「機械工業」「軽工業」の3部門にやや重点を置いていることは分かるが、全体として総花的で前年の重点投資型が平板化してきている。なお、ついでに表3、表4で国防予算、地方予算も見よう。

国防予算においては、表向きの平和統一方針の強調と裏腹に、若干ではあるが増勢に転換したことが注目される。また地方予算では支出の伸びに対応して国家納入額を低く見積もっている。これは、最近引き続く地方へのしわ寄せの弊害をいくらか改善しようという意志の表示であろう。

以上のように、「新年の辞」と国家財政を通じて見られる、膨大だが総花的で平板な課題設定は、実際にはもっとも差し迫った目標であり、金正日書記の権威を賭けた事業である世界青年学生祭典の準備建設を最優先課題とする形で実行されていくためのものであった。しかも、この平壤大建設課題はもともとは、1988年中には完了すべき目標だったのがだんだん延び、さらに建設過程で次々に金書記が新課題を付加するためますます膨大化して、ついに祭典直前まで速度戦方式で集中動員をかけねばならない事態となる。結果的には3年

間に合計47億ドルを投入する大建設事業となってしまうのである。

この間、他の生産活動や建設事業は、延期され見送られたため、人民生活ははなはだしく窮乏化していった。これを心理的に緩和し希望をもたせるため、6月7～9日に開催された朝鮮労働党第6期第16回総会は「一般消費材の生産で新たな転換を起こすために」(朴南基書記報告)を議題とし、織物、食料加工品、日用品などを数年内に大増産する課題を決議している。しかし当面は、平壤建設を完成し、祭典に集まる多数外国賓客に国力を誇示するためにも、食料や消費材を大量に平壤に集中させざるをえないこととなった。

●祭典後の経済立て直し努力 祭典当時からすでに経済力が限界にきていることが明らかになってきていた。合弁工場やサービス施設の多くの部分を在日朝鮮人の助力に仰がざるをえなかったことが、その象徴的な表われといえる。食料供給すら外国客のすべてにまでいきわたらず、電力供給ももう限界にきていた。

祭典が終わって見ると、地方の経済・人民生活が未曾有の困難に直面していることが表面化してきた。たとえば電力不足が深刻化して、平壤で日に何度も停電するという現象がみられるようになった。食料その他の消費物資は商店からほとんど消えた。未確認情報ではあるが、8月に党中央の決議で金書記指導の大規模建設がいっせいに中止されたとも伝えられる。

だが、ここ数年間むりにむりを重ねてきたために、経済の立て直しも容易でない地点に到達していた。基本的には、既存設備・施設の老朽化が進行し、輸送・流通系統が麻痺し、勤労者は全般的に無気力化していた。これを立て直すことは、構造的にも資金的にも大仕事である。しかも、第3次7カ年計画の目玉として推進してきた順川ピナロン、沙里院カリ肥料、金策製鉄所拡張、茂山鉱山拡張、西海岸30万ha干拓などの大規模建設目標が依然建設途上であって、これからいっそう多くの投資と人的動員をしなければ、計画期間に達成しえない可能性もある。

祭典直後の7月18日に、金書記直属の経済機関といわれる大型銀行が「財産証券」発行を発表し

たのは資金難を解決するためであった。それは、祭典で発揮された在日同胞の経済力や愛国心を当てにしたものであったが、思いつきの小手先細工にすぎなかった。

こういう事態を好転させるために、種々の努力が払われ始めた。その第一は、電力の建設・開発である。これは年初からすでに開始されていたもので、全国的に着工建設中の600余の水車型ミニ発電所を含む中小水力発電所建設を軌道に乗せるとともに、新たに重要都市に火力発電所を新規に建設することである。10月には平城市、金策市、咸興市で火力発電所建設に着工している。これは、単なる発電量不足を解決するというよりは、送電系統に欠陥があるため大規模発電所の建設推進ではなく、地元発電で生産を正常化する必要性に迫られたものと見られる。

電力に次いで報道が多く見られるのは、石炭鉱山、金属鉱山の開発と拡張・改造である。これも全国各地で進められているが、エネルギー問題の解決と原料および輸出品の供給増大をはかるためのものである。特にエネルギー問題は、近年石油、石炭、コークスにいたるまで対ソ連依存傾向が強まり、しかも対ソ貿易では輸入超過が続いているため、ソ連の意のままにエネルギー供給を操作されうる事態に陥りつつある。現に、年末からソ連の石油供給が中絶しているとの情報もあり、エネルギー問題の解決は焦眉の急となってきた。

一つの解決策として、これもソ連の支援で平安北道寧辺に原子力発電所の建設が進められているが、これについては公式報道がなされていない。

工場の新設・拡張工事も活発化し、大規模なものでは、10月に順川ピナロン連合企業所の第一段階工事と千里馬製鋼連合企業所の五月十八日大型鍛造工場が竣工し、金主席以下幹部を迎えて操業式を挙げた。金策製鉄連合企業所の第二段階拡張工事も同月完了している。

このように各分野で経済立て直し努力が展開されたが、やはり新規設備建設・拡張が優先して、なかなか生産の正常化には結びついていかない。

『労働新聞』は、9月2日には社説で全人民の英雄的闘争をよびかけ、10月21日には平壤各紙とも

に今年度計画を繰り上げ遂行する「総突撃戦」への決起をよびかけて、経済の停滞傾向を打破しようとしたが、結局部分報道以外に年度計画の完遂も公表できない結果に終わっている。

●年末に新規建設課題の登場 こうして、まだ経済立て直しも本格的な軌道に乗らぬうちに、年末段階になると再び新たな建設課題が提起され始める。

その第1は、11月初頭から金主席教示により農業用水路建設を1990年2月中旬までに完了する運動が始まる。これは、単なる農閑期の農民労働によるものではなく平壤市勤労者決起集会が開催(11月2日)されているところから見て、都市勤労者も動員するものである。規模も最初「数十キロメートル」と表現されていたが、しだいに延長していき最終的には西海岸地域400kmと長大化していく。これは干拓地造成を含む農業灌漑用のものだから、単に掘削で終わるものでないのは明らかだ。護岸、閘門、揚排水施設の完備までを予想すると、90年2月に完了するはずもない。かなり長期化する建設課題となりそうである。

第2は、金正日書記が12月12日に平壤市建設模型指導で打ち出した、5万世帯分の住宅(既計画2万に3万追加)を1991年までの2年間で建設するという新課題である。これも、日を追って規模がふくれ上がっていく傾向を示し、年を越した時点では各種付帯施設を含め前3年間に建設した世界青年学生祭施設の1.5倍にのぼる「雄大」な課題とされ、ここに電力や暖房を供給するための平壤第二火力発電所の新設も追加されてくる。

これは、祭典建設を上回る巨額出費を強いるだけでなく、それ以上の速度戦でやれというのだから経済各部門に対する影響ははかり知れない。

こうして金父子が競って大規模な新規建設課題の設定に乗り出したのは、農業増産、住宅新設という人民生活に直接影響する部門で功績を誇示しようとの焦りと、その権威体制を再確立したいとの願望を示すものである。だが経済政策の根本的な転換なしにはそういう願望も実現されないであろう。

1月

1日 ▶金日成主席「新年の辞」——88年は「永遠に忘れられない歴史的な一年」。経済成果の数学的発表なし。今年度課題：(1)工作機械工業と電子・自動化工業の急速発展、(2)軽工業のフル稼働と増産、(3)基本建設推進、順川ピナロンと沙里院カリ肥料を優先、(4)農業生産で前進、(5)世界青年学生祭準備、を列挙。この「膨大な革命課題」を革命的方法で遂行し、今年を「歴史的な勝利の年」にすること。祖国統一：「遠い将来のことではなく、解決を待つ現実的な課題」で「民主連邦共和国方案」こそ最善の方策、これを協議する「南北政治協商会議」を近く平壤で開催するため 南各党総裁らを平壤に招請。「二つの朝鮮」策動反対闘争が「差し迫った課題」。帝国主義者と社会主義諸国の世界的たたかいで「真理はわれわれの側にあり、われわれの勝利は確定的」。

▶「平壤 FM 放送」スタート——朝鮮音楽と世界の名曲はじめ、小説や放送劇など文芸作品も放送。

▶「韓民戦」中央委宣伝局「新年の書簡」——「盧泰愚軍政を打倒するための反ファッショ民主化闘争と『二つの朝鮮』策を紛砕する闘争を加速させ、それを米軍撤退のための反米闘争に発展させていくのは今年の救国運動の基本座標」。

2日 ▶『労働新聞』社説「党と領袖の指導に従って社会主義大進軍運動をさらに力強く促進しよう」。

4日 ▶『労働新聞』社説「国の平和を保障し、平和統一を早めるための綱領的な指針」。

6日 ▶金日成主席、バングラデシュ大統領特使一行と会見。

8日 ▶バリ化学兵器禁止国際会議で崔秀憲外交部副部長演説——「共和国の主張する朝鮮半島非核・平和地帯化の概念には化学兵器の徹底排除が含まれている」。

9日 ▶人民武力部スポークスマン談話、「チームスピリット」演習実行発表を糾弾。

10日 ▶金永南副総理・外交部長、非同盟諸国閣僚会議参加のためキプロスに出発(～20日)。

▶平壤で世界保健機関(WHO)の伝統医学協同研究センターおよび一次医療奉仕共同研究センター創設集会。

11日 ▶外交部スポークスマン談話、日本政府の対朝「関係改善」のためには、妨害条件を除去せよ。

▶朝鮮代表団(洪君杓原子力工業部副部長)ソ連訪問に出発。

13日 ▶『民主朝鮮』紙署名論評——日本政府の敵視政策糾弾。

▶金主席「新年の辞」と最近教示した社会主義建設での新転換課題を徹底貫徹する平壤市民大会。

14日 ▶『労働新聞』論評「侵略的な『チームスピリット』合同軍事演習は誰のためにもならない」。

15日 ▶各地寺院で成道節記念法会。

16日 ▶延亨默総理、南姜総理に書簡——北南高位級政治軍事会談予備会談のため2月8日に副部長級(次官級)を団長とする5人の代表を板門店に送る。

17日 ▶『労働新聞』論評、日本に「弔問代表」を送る盧泰愚一派を糾弾。

18日 ▶朝鮮労働党代表団(金養建党副部長)、日本社会党大会参加のため日本に出発(21～28日滞日)。

19日 ▶『労働新聞』論評で盧泰愚「年頭記者会見」糾弾。

▶中央人民委政令で「都市経営部」を新設。

20日 ▶妙香山普賢寺で祖国統一祈願法会開催。

21日 ▶李成緑化南北経済会談北側団長談話、南にひろがる北南間「物資交易」説は完全な偽り、謀略宣伝。

22日 ▶勝利自動車総合工場の新設エンジン総合分工場で大型トラックのエンジン生産開始と報道。

23日 ▶朝鮮オリンピック委金裕淳委員長、「大韓オリンピック委」委員長に書簡——3月9日に5人の代表団を板門店に送る。

▶南朝鮮同胞企業家鄭周永(「現代グループ」名誉会長)故郷江原道通川訪問のため平壤着(2月1日)。

▶社労青中央委第14回総会(～24日)——(1)工作機械と電子・自動化工業発展で社労青員と青年を先陣にすること、(2)青少年を党と主席に対する忠実性を革命的信念とする党の青年前衛に、チュチュ革命偉業の頼もしい継承者に力強く準備させることを討議。

24日 ▶『労働新聞』論評——南「全民連」に期待を表明。

25日 ▶全国青年熱誠者会議——金書記の「青年科学技術進軍」課題提起に対し、「新技術の主人公は青年」のスローガンを掲げ「技術革新青年突撃隊」「自動化青年突撃隊」活動を強化。

26日 ▶外交部声明——朝鮮半島を核兵器と化学兵器のない地帯とする実質的な措置を講じると声明。

27日 ▶平壤紡績機械工場工具職場作業班決起集会——年間計画短縮の社会主義競争をよびかけ。

28日 ▶人民軍海軍警備艇が西北方に領海不法進入した南船舶2隻をだ捕。

30日 ▶金日成主席がイタリア・ラジオ・テレビ放送支局長の質問に与えた回答(1988年10月29日)を発表——(1)

抗日武装闘争の経験、(2)経済建設の経験、(3)朝鮮半島統一の課題、(4)アメリカ新大統領との会談問題、(5)国際共産主義運動の問題。

▶許欽北南政治協商会議準備委員長、南各党総裁らに書簡を送る。

2月

1日 ▶鄭周永現代グループ名誉会長、平壤発帰国——在北中、金剛山地区の共同開発について議定書形式で合意、シベリア・極東地区開発に共同進出で合意。

2日 ▶外交部スポークスマン、ハンガリーとの外交関係を代理大使級に格下げ通告と発表。

▶金日成主席、農村のセントラルヒーティング化とガス化作業を現地指導、延亨黙、洪成南、趙世雄ら同行。

3日 ▶境界線中部非武装地帯で南側が大口径機関銃を数発射撃する重大軍事挑発を行なったと報道。

4日 ▶南側戦闘艦4隻が西海領海に不法侵入と報道。

▶朝鮮中央通信論評——南検察の金賢姫「不拘束起訴」は無益で愚かな「卑劣な策動」。

5日 ▶平壤市三石協同農場でメタンガスによるセントラルヒーティング化とガス化実現と報道。

6日 ▶『労働新聞』社説「継続革命の旗じるし掲げ、社会主義大進軍へ」。

7日 ▶全国で大収獲郡の榮譽を担うための農業勤労者の大衆運動が展開中と報道。

▶世界青年学生祭を成功させようとの党中央委員会決定を貫徹する平壤市民大会。

8日 ▶北南高位級政治軍事会談予備会談初会議。

▶『労働新聞』署名記事「われわれに対する日本の露骨な敵視政策」。

▶北南国会議員協議北側スポークスマン声明——第8回協議を「チームスピリット」演習後に延期。

10日 ▶速度戦青年突撃隊がこの14年間に140余の大記念碑的創造物完成の偉業と報道。

▶党の思想理論の偉大さに関する社会科学者の討論会開催(平壤)。

▶全国党思想部門活動家が白頭山踏査行軍(～11日)。

11日 ▶南朝鮮船舶「37太陽」「38太陽」号の乗組員全員を南に送還。

13日 ▶軍事停戦委第446回会議、崔首席委員米南の軍事挑発を糾弾。

▶最近、北部樹林地帯で抗日革命闘争時の樹木スローガン相次いで発見——樹木3026、スローガン数3050、金日成、金正日、金正淑を讃えたスローガン466。

▶朝鮮・モロッコ王国間大使級外交関係設定。

14日 ▶「韓民戦」中央委常務委員会拡大会議「創立20

周年スローガン」発表——(1)民族の太陽を戴きチュチェの一路を進もう！、(2)自主、民主、統一の三大闘争を加速化しよう！、等。

▶徳川市で2月16日学生少年宮殿開館。

15日 ▶各道所在地に「金正日花」温室建設中と報道。

▶朝鮮赤十字会委員長、南赤十字社総裁に書簡——会談再開は「チームスピリット」演習中止が条件。

▶平和統一委、南「全民連」に書簡——3月1日に板門店で接触提案に賛成、代表各5人が適当。

▶国連開発計画とキノコ生産技術開発協力で合意。

16日 ▶『労働新聞』社説「一心団結の威力で社会主義建設をさらに力強くすすめよう」(金書記誕生日)。

17日 ▶朝鮮作家同盟中央委、南朝鮮民族文学作家会談に公開書簡——北南・海外同胞作家会談提案を歓迎。

▶金主席、在日同胞に教育援助費・奨学金2億5160万円を送金(111回目)。

18日 ▶『労働新聞』論評——ハンガリーの対南接近弁明を非難。

▶『労働新聞』論説「全社会のチュチェ思想化綱領は勝利の旗じるし」——金書記の74年2月19日文献賛美。

▶平壤大城山麓の「金正日花」温室が多数入場者でにぎわう——「金正日花」誕生後1年で40余万人。

19日 ▶『労働新聞』社説「党思想教育活動をさらに深化発展させよう」——金書記文献は「不滅の戦闘的旗じるし」。

▶白頭山地区秘密根拠地に関する全国討論会。

20日 ▶第13回世界青年学生祭国際準備委常設委員会のオープン式典(平壤)。

▶南興青年化学連合企業所樹脂生産基地建設着工。

▶全国党宣伝活動家踏査行軍隊、白頭山密営の正日峰→將軍峰→正日峰を踏査行軍(～21日)。

21日 ▶金正日書記の名作に関する中央研究討論会。

▶順川ピナロン連合企業所建設場における75の対象、系統、工程の建設終了、試運転開始。

▶朝鮮社会民主党中央政治委員会会議——「北南政治協商会議開催提案の実現促進」を討議。

22日 ▶政府貿易代表団(宋希哲貿易部副部長)中国訪問に出発。

23日 ▶『労働新聞』論評「侵略の歴史は正当化できない」——日本竹下首相発言を糾弾。

▶外交部スポークスマン声明——ソ連とアフガニスタンの平和措置を支持。

▶「農村問題テーゼ」25周年中央研究討論会。

▶金書記文献「演劇芸術について」中央研究討論会。

▶金主席特使楊亨燮最高人民会議常設会議議長、エジプト訪問に出発。

・24日▶全国各地で中小発電所建設中、今年数百建設、年末に中小発電所の総発電力が数十万kWに達する。

・▶新興合併会社(大阪シンジン商事合併)開業式——自転車(年産1万台)、オートバイ、電子製品を生産。

・▶全国科学者、技術者熱誠者会議(～26日)。

25日▶ブルンジ国家救済軍事委員会議長ブョヤ大統領平壤着(～27日)。金主席歓迎宴。

・▶金主席、ブルガリア紙「オテチェストベン・フロント」代表団と会見。

・▶金主席、建設中の105階建ホテルを「柳京ホテル」と命名。

・▶朝中蒙ソ鉄道代表会談(北京、～3月4日)——89年度輸出入商品と通過商品の鉄道輸送認定書調印。

26日▶朝鮮・ブルンジ政府代表団会談。

・▶朝鮮中央通信、入南した北のチェコスロバキア留学生2人の利用策謀を非難——「2人は怠け癖と自由主義に染まって勉学を忌避し無断欠席を続けた不良学生」。

・▶明電合併会社(在日の豊栄商社との合併)操業式、心電計はじめ各種電子医療機器を生産。

・27日▶朝鮮軽工業代表団とロシア・ソビエト社会主義連邦共和国政府代表団会談、議定書調印(平壤)。

・▶各道、市、郡人民会議、金書記文庫「人民生活をさらに高めるについて」執行状況総括と対策を討議。

28日▶『労働新聞』三・一記念社説「全民族が立ち上がって反米自主統一運動を力強く繰り広げよう」。

3月

・1日▶外交部スポークスマン声明——ブッシュ大統領のソウル訪問とその好戦的発言を糾弾。

・▶金主席労作「社会主義経済のいくつかの理論問題について」発表20周年記念中央研究討論会。

・▶四・三工場でデジタルコンピュータ制御旋盤生産基地、熙川工作機械総合工場で加工中心盤、万景台工作機械工場で油圧ダイナミクス旋盤、数値制御発火加工盤等生産基地建設中で年内完成予定。

・▶平壤各紙、ブッシュ大統領のソウル訪問は、戦争と分裂のための犯罪的訪問と糾弾。

・▶汎民族大会予備会談不発で北側代表団金永男スポークスマン声明(板門店)——南当局者の妨害糾弾。

2日▶北南高位間政治軍事会談第2回予備会談(板門店)——北側「チームスピリット89」即時中止要求。

・▶朝鮮中央通信、日本の竹下首相の答弁を論評「謝罪したからといって黒い本性が変わったわけではない」。

3日▶『労働新聞』論説「革命的信義と同志愛は不敗の威力の源泉」。

4日▶デンマーク王国駐在大使に呉応権を任命。

・▶金主席が最近、平壤光復街の樹林づくりを教示、数百本のチョウセンマツ、リギダマツを贈る。

・▶綾羅島護岸と遊歩道工事(各5300坪)完了と報道。

・▶祭典都市・平壤をさらに美しく建設するための市内機関・企業所活動家の集会(金日成広場)。

・6日▶『労働新聞』社説「第13回世界青年学生祭を輝かせるための活動をさらに立派に進めよう」。

・8日▶平壤産院で80年開院以来新生児16万9000人、昨年だけで1万9500人が出産と報道。

・▶外交部スポークスマン談話——アメリカが侵略と敵視政策を引き続き実施するならば、当方も当然それ相応の措置を取る。

・▶駐インド大使に柳泰燮を任命。

・▶エジプト軍事代表団(シャナフ総参謀長)平壤着。

・9日▶第1回北南スポーツ会談(板門店)——北側、統一チーム構成原則と12項目方案を提示。

・▶朝鮮・エジプト軍事代表団間で会談。

・▶駐イラン大使に黄舜默を任命。

・▶『労働新聞』論説「一日も早い北南高位級政治軍事会談の開催を」。

10日▶外交部スポークスマン談話——モンゴルの軍縮措置を支持する。

・▶金主席、エジプト軍事代表団と会見。

・▶金主席が綾羅島遊園地造成教示、貴重な植物を贈ったと報道——「綾羅島を水上の花籠のように」。

・11日▶朝鮮中央通信、南の金賢姬初公判を「古い謀略脚本をまたも広げた」と非難。

・13日▶朝鮮人民軍最高司令官、人民軍、人民警備隊全部隊と労働赤衛隊、赤い青年近衛隊全隊員に「高度の革命的警戒心を抱き戦闘闘員態勢」を命令。

・▶人民武力部スポークスマン声明——「米・南独裁集団が戦争の道に進めば、侵略者を徹底的に掃滅」。チームスピリット演習は「北半部を先制攻撃する予備・核試験戦争」「演習は何時実戦に変わるかわからない」。

・▶党代表団(許鎔書記)中国、イタリア訪問に出発。

14日▶北部地区の下面、胎山、極洞、石城、黄谷の炭鉱で10余の斜坑、垂直坑、通洞を建設中。

・▶各地火力発電所で1～2月生産が88年同期比22%上昇(88年6月の順川火力発電所操業開始が主要因)。

・▶中国趙紫陽総書記、朝鮮労働党代表団(許鎔)に、朝鮮人民の闘争と朝鮮労働党と金主席が示したすべての統一方案と合理的主張を一貫して支持。

・15日▶金主席、ウガンダ大統領特使E・カテガヤ第一副首相と会見。

・▶高位級政治軍事会談予備会談北側代表団声明——会談を実現させたいなら「チ・ス」演習を中止せよ。

▶朝鮮学生委金昌竜委員長，南の全大協議長に北南学生会会談派遣代表メンバー表を電話通知文で送る。

16日 ▶朝鮮作家同盟中央委員会，南の民族文学作家会議に公開書簡——同会議提案の北南，海外同胞作家会議予備接触を27日に各5人の代表で開催することを希望。

▶天道教青友党中央委第6期第14回総会——「『二つの朝鮮』策動に反対し，自主的平和統一を促進する課題」と組織問題を討議，崔徳新新委員長は北南天道教人の協議を提議，天道教中央総本部教領らを平壤に招待。

▶学生会談北側代表団声明——3.16学生会談を妨害した南朝鮮当局者を「許し難い民族反逆行為」と糾弾。

▶「韓民戦」中央委員会，公開書簡発表——盧泰愚独裁集団の「中間評価」陰謀を糾弾。軍事独裁政権打倒闘争への決起をよびかけ。

17日 ▶金主席の歴史的演説「武装闘争を展開するための革命勢力準備を十分に整えよう」(1931年5月14日)を朝鮮労働党出版社から出版。

18日 ▶軍事停戦委第447回会議，共和国首席委員「チームスピリット89」演習を非難。

▶「労働新聞」論説「郡の位置と役割問題に科学的な解答を与えた文献」——金正日書記文献発表25周年。

19日 ▶「労働新聞」論説「真の主体型の共産主義革命教育成の指針」——金正日書記文献発表10周年。

21日 ▶南朝鮮軍兵士金泰植(24歳)が入北。

22日 ▶平壤各紙，盧泰愚「中間評価」延期を糾弾。

▶開城市の観音寺で涅槃法会——説教者，民族分裂をもたす要因が米侵略者と南独裁集団にあると正しく見，米侵略者と独裁集団に反対し，果敢にたたかって，正しく行動することを力説。

23日 ▶清津地区にオートメ化した大シリカチート・レンガ工場建設中。

▶南朝鮮の戦闘艦船2隻が西海の登山串領海深く進入・逃走と報道。

▶全国各地で1000余の重要対象を同時建設中(現計画の十大展望目標達成のための大建設事業)——(1)大記念碑的建築物，(2)発電所建設，(3)炭鉱・坑建設，(4)鉱山建設，(5)清津製鋼所の新金属工場建設，(6)機械，(7)その他工場，(8)交通運輸部門，(9)水産・農業，(10)都市と農村建設の対象。

▶中央人民委員会政令「四月祭典」記念銀貨発行。

25日 ▶金主席，平安南道寧遠発電所を現地指導——「威力ある自立的民族経済の巨大な潜在力を十分に発揮させるうえで電力工業は非常に重要」と発電所早期建設教示。

▶文益煥牧師(南朝鮮・全民連顧問)平壤着，声明。

▶「労働新聞」論説『平成』日本はどこへ行くのか——日本支配層が天皇を前面に平和国家を装うと糾弾。

26日 ▶文益煥牧師一行，平壤・鳳水教会復活節礼拝。

27日 ▶金日成主席，文益煥牧師と会見，熱烈歓迎。

▶共和国政党・団体連合会議開催——連合声明「北南対話の多面的発展」(1)統一は対話・協商を通じて平和的に実現，(2)対話は平和と統一，民族共同利益に寄与(「二つの朝鮮」のための対話は排撃)，(3)朝鮮人民は誰もが統一問題で接触・対話の権利をもつ(民間経済合作，共同・研究・出演・対外進出提案を奨励・許容)，(4)南・海外人士の北訪問を歓迎，(5)民族対話保障。

▶北南・海外同胞作家会議予備接触・北側代表団声明——板門店対面を妨害した南朝鮮当局者を糾弾。

28日 ▶第2回北南スポーツ会談——統一チーム旗図案で合意，名称問題で北側譲歩，選手選抜原則と方法でも合意成立。

▶主席特使楊亨燮議長，エジプト，ギニア，マリ，トーゴ，ベニン，コンゴ，アンゴラを歴訪して帰国。

▶祖国戦線中央委・祖国平和統一委連合会議——南当局者の反共ファクション攻勢強化を糾弾する声明採択。

29日 ▶沙里院カリ肥料連合企業所分離系統建設工——年間数10万トンのカリ肥料とアルミナ，1000万トンのセメント生産能力をもつ。

30日 ▶世界青年学生国際準備委第4回会議開幕(～4月2日)，金主席参席・演説「世界青年学生の親善と団結のために」，参加代表団代表らと会見。

▶駐マレーシア大使に俞在煥を任命。

▶金正日書記文献「チュチェ哲学の理解で……」発表15周年記念中央研究討論会。

31日 ▶日本社会党代表団(田辺誠前書記長)平壤着(～4月5日)。

▶朝鮮労働党・日本社会党代表団会談，許鏐，金勇淳，金養建ら。夕食迎宴で許鏐書記演説。

▶職総同盟中央委公開書簡——メーデーに際し，北南労働者交歓会を行なうことを南全労協に提案。

▶大同江大人造湖建設が進み，各水路工事が完成すれば大同江基本水流の長さ約400kmに達する。

4月

1日 ▶金主席，文益煥牧師宿舎を訪問。

▶祖国平和統一委声明，北南会談北側6代表団連合声明——南当局の文益煥牧師処罰策動を糾弾。

2日 ▶金主席，新設祥原セメント連合企業所，平壤市遺跡東明王陵を視察。

▶祖国平和統一委・文益煥牧師第2回会談，共同声明採択，共同記者会見。

3日 ▶金主席，中国政府代表団(威元靖冶金工業相)と会見。

▶文益煥牧師一行、平壤発帰国へ。

4日 ▶金主席、日本社会党代表団と会見。

▶日本社会党代表団が宴会。許綾演説——「日本政府は『関係改善』発言だけでなく、敵視政策を止め、『二つの朝鮮』策謀に加担しない立場を行動で示すべきである」。

▶ゴンボスレン・モンゴル人民共和国外相平壤着(～8日)。政府歓迎宴、金永南演説。

▶文益煥牧師、北京国際クラブで記者会見。

5日 ▶政務院建材工業部長に朱榮勲を任命。

▶金主席、イラン・イスラム革命近衛隊参観団(全国戦略防衛大学ソ・ヘ・ホニ学長)と会見。

▶朝鮮・モンゴル外相会談。

▶朝鮮・中国政府間経済・貿易・科学技術協力委員会創設協定調印(平壤)。

▶天道教唱導129周年天日記念式。崔徳新記念報告。

▶保健デー、共和国で人口1万人当り医師27人、病院ベッド131台に達している。

▶平壤都市設計事業所金雲奉前副技師長に労働英雄称号、金メダル、国旗勲章第一級授与——革命の首都—平壤建設の設計活動に大きく貢献し、革命同志を救うために英雄的な最後を遂げた。

6日 ▶金主席、モンゴル外相と会見。

7日 ▶最高人民会議第8期第5回会議開幕——「1988年国家予算執行の決算と1989年国家予算について」(尹基貞財政部長報告)を討議。

▶『労働新聞』論説「革命的領袖観確立の根本要求」——金書記文獻賞賛。

▶光復街中心に5000世帯住宅が完成間近——10棟の高層・超高層。各棟平均500世帯、1世帯平均110平方m。

▶朝鮮・モンゴル間領事協約調印、民事・家族・刑事事件の法律上の相互協力交換議定書サイン(平壤)。

▶第7回「四月の春親善芸術祭」開幕(～18日)60余国、77芸術団・サーカス団、海外同胞芸術団体参加。

8日 ▶訪朝中の南朝鮮作家黄哲映(3月20日平壤着、黄海南道信川出身)と平壤市内作家・芸術家の座談会開催。

▶ギニア共和国政府代表団(ジャン・トラオレ外相・国家再建軍事委員会委員)平壤着(～12日)、政府歓迎宴。

9日 ▶金主席、イラン外相一行と会見。

▶朝鮮中央通信、南朝鮮軍事集団が軍事境界線中部五聖山南方非武装地帯で焼夷弾発射の武装挑発と報道。

10日 ▶民主カンボジア大統領シアヌーク殿下平壤着(～24日)。金主席迎接、歓迎儀式。

▶朝鮮・ギニア間協力共同委創設協定調印(平壤)。

▶金永南副総理・外交部長一行、ユーゴスラビア訪問に出発。

▶『労働新聞』社説「今年の国家予算の徹底遂行」。

▶端川—満徳間108km鉄道電化完了、開通式——虚川地区の鉱石輸送と豊富な天然資源開発利用の展望。

11日 ▶北南高位級会談予備会談の北側代表団長、4月12日予定の第3回予備会談を26日に延期通告。

▶祥原セメント連合企業所操業式。

▶ウガンダ軍事代表団(エーリ・ツンウィネ国民抵抗軍司令官)平壤着。呉振宇と会見、人民武力部歓迎宴。

12日 ▶金日成主席、ギニア政府代表団と会見。

▶ガボン駐在大使に林根春を任命。

▶主席特使李鐘玉副主席一行、マダガスカル訪問に出発(～26日)。

▶チュチェの革命的領袖観に関する社会学者討論会——「金書記が明らかにした全党、全人民、全国、全軍に偉大な領袖への忠実性が満ちあふれさせるところにチュチェの革命偉業完成のための秘訣、決定的な担保がある」。

▶「新技術少年烽火賞」獲得をめざす平壤第一高中学生決起集会。

13日 ▶「韓民戦」中央委「時局宣言」——(1)盧泰愚を退陣させよう、(2)闘争によって組織を死守し組織を育てよう、(3)民族的な連帯共同闘争に立ち上がろう。

▶四月祝日を迎え、首都平壤に青年ホテル(30余階、520余室)、西山ホテル(30階約1000室)、両江ホテル(330余客室と570余席の各種食堂等)が完成と報道。

14日 ▶祖国平和統一委声明——南朝鮮当局の文牧師連行・拘束を糾弾。

▶西海閘門—平安南道干拓地水路1段階工事終了、初通水。

15日 ▶金主席、シアヌーク殿下と会見、昼食会。

▶『労働新聞』社説「党と領袖の指導のもと勝利と栄光の道へさらに前進しよう」。

▶「韓民戦」中央委、金主席誕生日祝賀文——「チュチェ思想の旗じるしをさらに高く掲げて、民衆の意識化、闘争の大衆化を推進し変革運動の主体を築き、反米反独裁救国闘争の炎を激しく燃えさからせ、自主独立の新しい局面を開拓し、連邦統一の礎石を強固に整え、南北の全同胞が一堂に会して、統一の祝祭を行なう歴史的日を必ず早めるでしょう」。

▶朝鮮少年団全国連合大会。

▶15万席の陵羅島競技場が完成。

16日 ▶金主席、胡耀邦中国共産党政治局員死去に弔電。

▶平壤・万景台学生少年宮殿完成——敷地面積15万平方m、総建築面積延べ10余万平方m。

17日 ▶金主席、「4月の春親善芸術祭」に参加した各国芸術家の交歓公演を観覧。

▶金主席、ウガンダ軍事代表団と会見。

▶高位級政治軍事会談予備会談北側代表団長、文牧師拘束の状況下では26日予定の第3回会談を7月12日に延期せざるをえない、スポーツ会談北側代表団長も、18日予定の第3回会談を7月18日に延期せざるをえないと通告。

▶「緯民戦」中央委青年学生局、4・19人民蜂起29周年で青年学生に檄文発表——「青年学生たちがたいまつを掲げ、4・19闘争の広場に再び進出してこそファッショ攻勢を撃破する反撃戦の突破口が開かれ、盧泰愚軍政を清算する第二の六月抗争の局面がもたらされる。

▶党代表団(徐寛熙書記)チェコスロバキアに出発。

18日▶金主席、新製作の車両・建設機械を視察——自力研究製作のトラクター、自動車、掘削機、トロリーバス。

▶姜希源を政務院副総理に任命。

▶南朝鮮4・19蜂起29周年記念平壤市報告会、尹基福記念報告——「南朝鮮青年学生と人民は軍事ファッショ支配清算と真の民主政権樹立のため最後までたたかうべき」。

▶学校スポーツ専門化、大衆化方針15周年報告会(金書記が74年4月18日に黄海北道新溪郡大井江東中学校で示した方針)。

19日▶各対象の建設が続々完成——光復街サーカス劇場、光復街5000世帯住宅とサービス施設、光復街メインストリート、平安北道3貯水池、金策製鉄能力拡張8対象、茂山鉱山能力拡張工事諸対象完成。定平鉱山開発工事完成段階、咸興殺草剤工場建設基本的に終了。

▶文牧師弾圧糾弾集会、平城市、沙里院市、開城市で。

20日▶朝鮮労働党・キューバ共産党間会談(平壤)。

▶朝鮮合併銀行第1回理事会、理事長・総裁に全演植朝総連副議長選出。

▶平壤包装材合併会社操業式(平壤食料連合企業所と西東京商事合併)。

▶新二百日戦闘完了報道——火力発電量、石炭、自動車、トラクター、100トン貨車、丸太などの生産と鉄道貨物輸送量は戦闘期間10～60%成長。500余の対象建設完成。

21日▶金主席、キューバ共産党代表団と会見。

▶文牧師・民主人士弾圧糾弾市民集会——(～22日)。清津市、恵山市、咸興市、江界市。

22日▶朝鮮労働党・コンゴ労働党代表団間会談(平壤)。

▶朝鮮青年学生民族大祭典中央コンクール開始(～5月2日)。

▶国連開発計画との協力計画に基づき科学院咸興分院有機化学研究所に近代的な触媒研究施設新設、操業式。

▶咸興化学合併工場着工集会——朝鮮龍岳山貿易総会社韓社長「着工の辞」、在日朝鮮人商工連呂副会長演説。

▶平城農業機械工場新設、操業開始。

23日▶黄哲暎南民族芸術人総連合スポークスマン記者会見、崔栄文芸総副委員長同席し共同採択した「北と南が民族文学芸術を統一的に発展させるための合意書」発表。

24日▶中国共産党趙紫陽総書記、特別列車で平壤着。金主席、金書記以下最高幹部出迎え。歓迎宴金主席演説「盧泰愚大統領をはじめ南朝鮮の各民主人士もわれわれの招請に応じて速やかに会うことを期待」。

▶金主席、コンゴ労働党代表団と会見。

▶朝鮮人民軍創建57周年記念中央報告大会、崔光総参謀長記念報告——「われわれの任務と当面の情勢は、全人民と人民軍軍人がいつにもまして緊張し動員の態勢を堅持して革命力量を各面から強化するよう求めている」。

▶全文旭人民軍上將死去(71歳)。党中央委員、最高人民會議代議員、姜健総合軍官学校校長。

▶南朝鮮作家黄哲暎平壤発。

▶ルーマニア・ディンカ第一副首相平壤着。

25日▶金主席・趙総書記会談、金正日、延亨黙、許鉄、崔光、金勇淳、金達玄ら出席。

▶趙紫陽「幸福の歌」大公演観覧、金主席同席。趙総書記友誼塔、大城山革命烈士陵に献花。

▶金主席、人民軍創建57周年に際し人民軍763部隊を訪問・祝賀。金正日、延亨黙、全秉浩同行、呉振宇、崔光、金光進ら出迎え。

▶朝鮮キリスト教連盟声明、文牧師を拘束する南朝鮮支配層は「キリスト教徒への耐え難い冒とく、挑戦、全同胞の統一念願に対する破廉恥な背信」と糾弾。

▶中央科学技術祭開幕。季資方国家科学技術委委員長報告——金書記のエネルギー指針を強調。

▶平壤市学生少年と共和国英雄との交歓会および戦時歌謡音楽会(人民軍烈士塔前)。

26日▶金主席・趙総書記第2回会談。同前メンバー出席。真剣かつ友好的な雰囲気。

▶金主席、ルーマニア政府代表団と会見。

▶呉人民武力部長、シリア人民軍代表団と会見。

27日▶趙紫陽総書記、順川ピナロン連合企業所参観。

▶金書記文獻「党の指導体系を徹底的に確立するために」発表十周年中央研究討論会。

28日▶趙総書記、金主席と黄海製鉄連合企業所参観。同日、西海閘門参観。主席参加の党南浦市委員会歓迎宴で趙演説「金主席と真剣かつ友好的な会談を行ない、多くの問題について十分な意見を交わした」。

▶外交部スポークスマン——駐韓米軍武力増強を非難。

▶第13回世界青年学生祭朝鮮準備委員会、内外記者会見——22日付南朝鮮各界人士に送る書簡の受取が2回南

側に拒否されたので書簡公開。招待した55人の名簿を紹介。

▶朝鮮作家同盟委員長石潤基死去(59歳)訃告。

▶全国農業部門青年の決起集会(文徳郡)——当面の営業活動で前衛隊・突撃隊になることを強調。

29日 ▶趙総書記一行、平壤発、金父子ら見送り。

30日 ▶『労働新聞』社説——「趙紫陽総書記の訪朝は兄弟的友好のきずなの固さを誇示」。

5月

1日 ▶5.1 スタジアム(綾羅島競技場)竣工式、金父子ら最高幹部列席。同日中央人民委政令で同競技場を「5.1 スタジアム」と命名。

▶光復街通り、サーカス劇場、両江ホテル、西山ホテル、青年ホテルの各竣工式、金父子ら最高幹部参加。

▶メーデー 慶祝平壤市内 勤労者と 外国賓客の 交歓会(大城山遊園地)。平壤市勤労者夜会(金日成広場)。

▶『労働新聞』メーデー社説「団結の旗を高く掲げ、全世界自主化を実現しよう」。

2日 ▶万景台学生少年宮殿、5000世帯住宅、サービス施設の各竣工式、金父子ら最高幹部参加。

3日 ▶政府貿易代表团(季成録副部長)イランに出発。

▶外交部「備忘録」発表——朝鮮半島で核戦争の脅威増大「米・南朝鮮当局者は三者会談に一日も早く応じるべきである」。

4日 ▶金正日書記 74.5.7 文献(主体的出版報道物の基本任務)発表15周年記念出版報道部門中央研究討論会。

▶女性同盟中央委第10回総会(～5日)——子供の保育教養事業を発展させる問題、全社会の文化情緒生活の気風確立の課題を討議。

5日 ▶『労働新聞』、金書記が88.10.12に党中央委責任活動家と行なった談話「現代と青年の任務」を掲載。

▶職務中央委第17回総会(～6日)——金書記 74.2.19 文献と「職業同盟事業をさらに強化するについて」(84年5月3日)の執行状況総括について討議。

▶『労働新聞』論評——釜山・東義大学の警官6人焼死事件は学生の正当防衛。

7日 ▶斐津半島西南領海深く南朝鮮の船舶と戦闘艦艇が不法侵入の重大軍事挑発、船舶1隻をだ捕。

▶平壤の鳳水教会で文牧師釈放祈禱会。

▶金日成総合大学の研究チームが最近室内温度での核融合反応の実現に成功、と報道。

8日 ▶イラン政府経済代表团(フォロゼシュ建設相)平壤着。

10日 ▶朝鮮民主法律家協会、告発状発表——文牧師らの平壤訪問を犯罪視し、送検した南朝鮮当局者の不法な

ファッションの専横を断罪。

▶長寿者増加、平壤市で90歳以上が1000余人、黄海南道長淵郡広天里には108歳の2老人がいると報道。

11日 ▶国連開発計画の協力で、とうもろこし種子研究室のコンピュータ化完成、操業式。

12日 ▶『労働新聞』論評、朝鮮大学・李哲揆君の死は拷問かテロによる殺害。

▶金主席、イラン建設相、カメルーン議会議長とそれぞれ会見。

▶金策船舶工場でタンカー「金策」号を建造、進水。

▶朝鮮青年学生の民族大祭典閉幕集会。

13日 ▶広浦合併会社(咸鏡南道の広浦アヒル工場と在日東京商人)開業式。

14日 ▶イラン・イスラム共和国ハメネイ大統領、平壤着(～17日)、李鐘玉ら出迎え。金主席迎接、会談。

15日 ▶金主席・ハメネイ大統領第2回会談。歓迎レセプション。

▶社労青・学生委員会共同声明——李哲揆君虐殺事件の真相を隠そうとする南独裁集団を糾弾。

▶「韓民戦」光州人民蜂起9周年檄文発表——「民族挙げてのたたかいでファッション攻勢を粉碎……汎国民的な光州虐殺犯罪者処罰闘争で全斗煥を拘束し、盧泰愚を国民の審判台に引きずり出そう!」「拳族的なたたかいで植民地ファッション勢力を危機の穴に追い込もう!」

16日 ▶ハメネイ大統領歓迎平壤市民大会。

▶社会主義国防体育指導機関委員長定期会議(平壤、～18日)。

▶30余の大規模鉱山開発候補地と60余の坑道建設候補地を発見。

17日 ▶金主席、ハメネイ大統領第3回会談、同大統領主催昼食会。同大統領平壤発、金主席、呉振宇、李鐘玉ら空港見送り。

▶朝鮮・イラン間共同コミュニケ発表。両政府間科学・技術・文化交流計画書、外交部・外務省間協力合意書、経済・科学技術協力共同委第1回会議会談録調印。

▶朝・ソ89年度商品流通・支払協定書調印(平壤)。

▶朝鮮・ブルガリア間民事・刑事事件法律上協力条約調印(平壤)。

▶英雄的光州人民蜂起9周年記念平壤市民大会。

▶金日成総合大学生が李哲揆君拷問虐殺糾弾集会。

18日 ▶平壤国際映画館、青年中央会館、東平壤大劇場、羊角島サッカー競技場竣工式——金父子ら参席。

▶南朝鮮戦闘艦艇が西海登山串領海に侵入、逃走。

▶ソ連コミ自治共和国のシクチフカル市で朝鮮連合貿易会社商品展開幕。

▶中央人民委員会、全労働者、技術者、事務員に特別

賞金授与政令——二百日戦闘、新二百日戦闘での偉勲を高く評価、世界青年学生祭をひかえ授与。

19日 ▶朝鮮労働党代表団(鄭浚基副総理)パキスタン訪問に出発。

▶鉄道運輸代表団(朴容錫鉄道部長)ソ連、ルーマニアに出発。

▶平壤国際映画会館(羊角島)開館。

20日 ▶世界青年学生祭朝鮮準備代表団・社労青中央委代表団・学生同盟代表団連合声明——南青年学生の平壤祭典参加を協議する北南6団体代表会議開催提案。

22日 ▶茂山地区戦闘勝利記念50周年中央大報告会。

▶朝・ソ極東経済協力常設実務分科第2回会議議定書調印(平壤)。

▶朝鮮原子力工業部・チェコスロバキア原子力委員会間で原子力平和利用分野協力議定書調印(平壤)。

23日 ▶朝鮮中央通信報道——5月7日領海侵犯の南朝鮮船舶「ミョンソン2」号と4人の乗組員を送還。

▶青年中央会館、東平壤大劇場竣工と報道。

24日 ▶3歴史学者(金榮律、金錫亨、朴時亨)が南歴史学者に公開書簡で、北南史家会談開催提案。

▶『労働新聞』論説「朝鮮革命を引き続き高揚させたクンゴル会議」——安図県クンゴルで39.5.24朝鮮人民革命軍軍政幹部会議、金日成歴史の演説。

25日 ▶平壤市青年学生決起集会——金書記「現時代と青年の任務」で示された課題貫徹のため(以後各地)。

▶抗日革命闘争時期のスローガン発見続く——平壤大城山(20余点)と龍岳山(約20点)一帯の樹林。

▶駐ガイアナ大使に林基沢を任命。

▶朝鮮人民軍政治活動家代表団(李奉遠上將)チェコスロバキア、ルーマニア訪問に出発。

▶駐朝ソ連モロゾフ臨時代理大使記者会見——ソ中高位級指導者会見の意義について。

26日 ▶「金日成花」「金正日花」栽培成果を普及する全国植物学者の科学技術発表会(平壤)。

▶平壤一開城間高速道路橋梁工事完成。

▶朝鮮中央通信、朝米大使館参事接触(5月15日、北京)問題で「国際テロ」は当方と関係ないと論評。

▶平壤一熙川間高速道路工事着工式(人民軍林東熙所屬部隊)。

27日 ▶金主席、ブルガリア政府軽工業代表団と会見。

30日 ▶朝鮮宗教人協議会結成集会——天道教、キリスト教、仏教、カトリック教はじめ各宗教団体代表出席。会長に崔徳新天道教会中央指導委員長を選出。

▶『労働新聞』論説、34年5月31日の金主席指導による朝鮮人民革命軍党委員会結成を記念。

31日 ▶「現時代と青年の任務」中央研究討論会。

▶共和国赤十字会孫委員長、南赤十字社総裁に第2次芸術団と故郷訪問団交換、実務代表接触を提案。

▶柳京ホテルの骨組工事完了と報道——着工1年で鉄筋コンクリートの建物として世界第1位。

6月

1日 ▶朝鮮軍事代表団(吳振宇)東独訪問に出発。

▶朝鮮労働党代表団(桂心泰書記)キューバに出発。

2日 ▶朝鮮宗教人協議会、南朝鮮宗教人協議会宛書簡公表——北南宗教人会談の6月下旬開催を提案。

▶外交部報道局担当者、日本首相の「遺憾」の意表明は注目に値する。だが「対共和国敵視政策と「二つの朝鮮」政策中止など基本問題点について全く言及がない」、「実践行動で誠意を示すべきである」。

3日 ▶『労働新聞』論説「帝国主義の『援助』『協力』は支配と略奪の罠」。

4日 ▶世界青年学生祭朝鮮準備委・社労青中央委・朝鮮学生委代表団連合声明——南全大協の6月10日6団体代表団会談開催提案に呼応。

▶平壤祭典に向かう朝鮮青年学生のたいまつリレー普天堡出発。

5日 ▶軍停委北側首席委員書簡——米軍遺骨問題未解決の責任は全的にアメリカ側にある。

▶南朝鮮カトリック教の文圭鉉神父平壤着(～19日)。

6日 ▶金主席、ホメイニ師死去でイラン大使館弔問。

▶天道教青友党・崔徳新委員長が南天道教中央総部吳益領教領を平壤に招待。

▶文神父が平壤長忠聖堂で統一祈願・促求ミサ。

▶駐ザイール大使に李鉉植を任命。

▶平壤一金剛山間高速道路工事完了と報道。

▶『民主朝鮮』紙論説「社会主義・共産主義偉業は必勝不敗」。

7日 ▶▶朝鮮労働党中央委第6期第16回総会(～9日)議案。(1)「一般消費財の生産で新たな転換を起こすために」(朴南基書記報告)93年に織物15億に達成、数年内に食料加工品生産を3.2倍、数年内に日用品を2.5倍、2～3年内に全般的輕工業製品の質を世界的水準に引き上げる等。(2)「組織問題」李勇武を中央委員候補から委員に、張成沢、李奉益、金昌浩、金泳国、車容鎮、金鶴燮を中央委員候補に、韓章根を中央検査委員に。

▶民主カンボジア・シアヌーク大統領一行平壤着。

▶世界青年学生祭朝鮮準備委崔委員長、南国土統一院長官に電話通知文——南朝鮮青年学生の祭典参加問題解決のため南北当局関係者間協議開催提案。

▶世界青年学生祭朝鮮準備代表団・社労青代表団・学生委代表団連合会議——6団体代表会談参加の具体策

を討議。板門店通過手続協議関係者接触を提案。

▶朝鮮赤十字会委員長，南赤十字社総裁に板門店通過手続問題で関係者協議を開催提案。

9日 ▶反日6.10万歳デモ闘争63周年平壤市報告会，鄭斗煥祖国戦線議長報告——「南朝鮮の各界人民は植民地ファッショ独裁を打倒し，自主的民主政權を立てて民主主義的自由と権利を獲得しなければならない」。

10日 ▶駐アルバニア大使に金佑鐘を任命。

▶革命的党建設で達成した党の業績研究討論会——金書記の業績を礼讃。

11日 ▶駐ルーマニア大使に文秉祿を任命。

▶各地で全労働者，技術者，事務員，学生に特別賞金授与開始——1月分生活費と奨学金の100%相当。

▶『労働新聞』評論員論評，アメリカの対中「制裁措置」を糾弾(天安門事件)。

12日 ▶朝鮮万豊合併会社(日常生活品)操業式。

▶中国『人民日報』記事——中国共産党は300人の代表を祭典に参加させる。

13日 ▶咸興連結農機工場で新小型トラクター生産。

▶社会主義建設で達成した党の業績に対する経済建設部門研究討論会。

14日 ▶順川ピナロン建設者・軍人の決起集会。

15日 ▶6月6日モスクワで許錫祖国平和統一委員会委員長と南朝鮮・金泳三統一民主総裁接触と報道。

▶党の偉大さと革命業績に関する中央研究討論会——金書記は非凡な英知と卓越した指導でチュチェ祖国を輝かす偉大な指導者。

▶南朝鮮人民の6月抗争2周年平壤市報告会。廉泰俊祖国戦線議長記念報告——「南朝鮮人民は……まずアメリカ軍を撤退させて植民地支配を終わらせ民主政權を立てるために一層果敢にたたかわなければならない」。

▶『労働新聞』論評「南朝鮮現政權は独裁，従属，反統一売国の政權」。

17日 ▶都市経営部長に李鉄奉(元社会安全部長)を任命(同部は1月19日新設)。

▶国師峰会議50周年記念咸鏡北道報告会——36年6月18日に金主席が国師峰で国内各地政治工作員と祖国光復会組織責任者の会議を招集，歴史的演説。

19日 ▶カンブチア人民共和国武装勢力代表团(キュー・サムファン副大統領)平壤着(シアヌーク大統領司会で実務会議を行なうため)。

▶祖国平和統一委声明——6月13日の南「大統領令・南北交流協力基本指針」の確定・施行は「一考の価値もない南北間封鎖措置にすぎない」。

▶韓民戦中央委檄文発表——「百万学徒がみな闘士・決死隊となって暴圧と欺瞞をはねのけ平壤祭典の道を開

こう！」。

20日 ▶北南国会合同会議・双方協議北側代表团長，南側首席代表に6月28日協議再開提案。

21日 ▶500余の水車式発電所着工，200余完工。

▶4月3日工場に数値制御工作機械生産基地建設中。

▶金日成主席，新設の人民経済大学経済部門別研究室と金日成大学体育館を視察，金書記ら同行。

▶ベトナム共産党政治局員グエン・ティン・ビン書記一行平壤着。

▶朝鮮・ベトナム政府間経済・技術協力委員会創設協定調印(ハノイ)。

22日 ▶共和国赤十字会委員長，南赤十字総裁に書簡——7月14日代表接触を提案。

▶朝鮮労働党・ベトナム共産党代表团間会談(平壤)。

▶全国青年熟誠者会議(平壤総合紡績工場)——社労青員と青年の間で「軽工業革命青年先鋒隊」獲得運動を力強く繰り広げるため。

▶文神父ニューヨークで記者会見，停戦協定を平和協定に変え，南朝鮮からの米軍撤収と核兵器撤去を。

23日 ▶元山—金剛山間高速道路工事完工，開通式。

25日 ▶パレスチナ・アラファット大統領平壤着，金主席出迎え。歓迎儀式。金・アラファット会談。歓迎宴(～26日)。

▶李晃相音楽家同盟委員長死去(81歳)。

▶世界青年学生祭朝鮮準備委・社労青・学生委連合声明——祭典参加を阻む南朝鮮当局を糾弾。

26日 ▶金・アラファット第2回会談(真しかつ友好的雰囲気)。アラファット大統領，答礼宴。

27日 ▶朝鮮労働党中央政治局・中央人民委連合会議——第9回非同盟諸国首脳会議を控え非同盟運動と関連した一連の問題を討議。

▶『労働新聞』論説「青少年の革命継承者育成事業が立派に解決」——「チュチェの血脈はいかなる環境の中でも固守擁護されるであろう」。

28日 ▶『労働新聞』論評「ハンガリーでの現事態は何を示すか」。

29日 ▶金日成主席，ニエレレ・タンザニア革命党議長歓迎宴。

7月

1日 ▶第13回世界青年学生祭開幕——金主席祝賀演説「青年学生は時代の先駆者になろう」，ムガベ大統領祝賀演説。世界青年学生祭記念塔除幕式。祭典代表のデモ行進。大同江上で水上アトラクション。

▶ジンバブエ・ムガベ大統領平壤着(～2日)。

2日 ▶金日成競技場でマスゲーム「今日の朝鮮」。反

帝裁判所開幕。8 テーマ別センター開幕。

▶金主席、祭典参加者歓迎宴。

▶金主席、ムガベ大統領会談。

3日 ▶祭典マイルレース、1500余人参加、林秀卿代表も参加。てっ拳道模範競技開幕式。

▶金主席、各国党首班、貴賓と平壤サーカス団総合公演を観覧。

▶林秀卿代表記者会見——全大協アピール文朗読。国土縦断大行進をし板門店經由帰南と表明。「許可しなければその場で死んでも第三国を經由して戻りたくない」。

4日 ▶駐モルジブ大使に柳泰燮を任命（3日任命のスリランカ大使と兼任）。

▶金主席、ニエレレ議長単独会談。同議長出発。

▶平和・反核青年学生たいまつ行進（5万余人参加）。

5日 ▶5日現在、祭典参加国数は180カ国、国際・地域機構から60余の代表団と代表参加。

▶朝鮮・ザンビア党・政府代表団間会談。

6日 ▶第1回国際青年発明・新技術平壤展覧会表彰式——最高賞は共和国の「正日峰での刻字石組立法」。

7日 ▶朝鮮学生委・全大協「祖国の自主的平和統一に関する北南青年学生の間宣言文」発表。

▶『労働新聞』論評——盧泰愚の7・7「特別宣言」発表1年「盧一派こそ反民主、反民族、反統一的な軍部ファシズム集団、売国反逆の分裂主義集団」。

8日 ▶祖国平和統一委声明——南朝鮮当局の平民党徐敬元議員逮捕を糾弾。

▶第13回世界青年学生祭閉幕、金父子ら主席壇に。

9日 ▶内外同胞の祖国統一促進大会。

▶金亨稷先生生誕95周年記念報告会（金亨稷師範大）。

10日 ▶朝鮮労働党・ザンビア統一民族独立党間相互協力議定書調印（平壤）。

▶朝鮮・ニカラグア両国青年軍人の交歓会。

▶党・政府代表団（李鐘玉）ニカラグアへ出発（～26日）。

11日 ▶6月28日付政令で、辺英立教育委員長解任、崔基龍を新委員長に任命と報道。

▶『労働新聞』論説、金主席の30年7月3日のカ倫での党組織結成会議演説を記念。

12日 ▶李鐘玉副主席、ベルリンで東独クレンツ国家評議会副議長と会見。

13日 ▶国連開発計画との被服設計技術近代化協力、通信分野協力合意（平壤）。

14日 ▶国際民主法律家協会、盧泰愚と国防部長官、駐屯米軍司令官宛書簡——林秀卿板門店通過と身辺保障要求。

16日 ▶『労働新聞』論説「党の地位と役割に関する理論の大きな生命力」——「党の偉業を完成する上で根本

問題は、それを正しく継承すること。党の偉業を継承する基本は政治的領袖の地位と役割を継承すること」。

▶慈江道、咸鏡北道、既発見地帯で革命的スローガン樹木また発見。7月10日現在の発見総数は6100余本。

17日 ▶外交部関係者談話——ハンガリーのビザ廃止協定廃棄決定を非難、共和国も同じ措置を講じる。

18日 ▶北側国会議員代表団声明、南側の第8回協議無期延期（7月6日通告）を非難、8月中旬開催を提案。

▶6月4日車両連合企業所で新型100^ト貨車を生産。

▶財産証券発行で全明熙朝鮮大聖銀行総裁記者会見。

19日 ▶国際平和大行進（7月20～27日）国際準備委記者会見——30余カ国、400余人参加。

▶金書記「教育事業をさらに発展」5周年討論会。

▶『労働新聞』署名論説——金書記「映画芸術教育事業で社会主義教育学原理を徹底具現」18周年。

20日 ▶平壤市周辺に5000世帯分50余の近代的シロカチート・レンガ住宅の新設推進。

▶20余重要産業対象建設工事が最終段階、金策製鉄、茂山鉱山、順川ピナロン、勝利自動車拡張工事、4月3日工場と熙川工作機械工場拡張工事、南興青年化学炭酸ソーダ工場、咸興除草剤工場、寧辺網織工場拡張工事、7月6日陶磁工場など基本的に完工、操業目前。

▶北南高位級政治軍事会談・予備会談北側代表団声明——第3回予備会談の8月末開催を提案。

▶国際平和大行進隊結成式（三池淵）「一つの朝鮮は良い、二つの朝鮮は悪い」のシュプレヒコール。

21日 ▶『労働新聞』社説——第13回世界青年学生祭を国際的な大慶事として輝かせた意気込みで社会主義建設で一大高揚を。

▶国際平和大行進出征式（白頭山頂）。

▶金書記「教育事業をさらに発展」5周年報告会。

▶朝鮮統一・ソ朝親善ナホトカ自動車隊、清津着。

22日 ▶朝鮮中央通信、南「安全企画部」発表の「徐敬元議員密入北事件中間捜査結果」を、共和国へのいわれなき中傷と非難。

▶駐ニジェール大使に金堂秀を任命。

23日 ▶国際平和大行進隊、平壤着。10余万市民歓迎。

▶スポーツ会談北側代表団、8月10日会談開催提案。

24日 ▶国連サフロントック事務次長一行、平壤着（～8月1日）。

▶党・政治代表団（尹基福）民主イエメンへ出発。

25日 ▶駐ルワンダ共和国大使に全永雲を任命。

▶モンゴル人民革命党政治局員モロムジャムツ書記一行、平壤駅到着。

26日 ▶全大協林代表、開城で記者会見——板門店通過で帰る、反対すれば認められるまで待つ。

▶駐ガーナ大使に李海燮を任命。

27日 ▶国際平和と大行進隊、板門店着。統一閣で朝鮮平和・統一国際平和大会、行進最終宣言。国連事務総長、非同盟運動議長、各国政府、社会主義インター宛書簡、全世界人民に送るアピールを採択。

▶軍停委北側崔首席委員、米側首席委員に林代表の板門店通過許可を再度要請。

▶林秀卿代表ら抗議ハンストに突入。

28日 ▶平壤甘栗研究所建設中（朝鮮経済協力会社・在日永興商事合併）、金主席「リ・ヨンサム 平壤甘栗研究所」と命名。

29日 ▶「在日大韓キリスト教会」代表団（金桂吳南北宣教委員会委員長）平壤着。

▶政府代表団（金達玄）ソ連に出発。

30日 ▶林秀卿代表記者会見、「全大協の百万学徒と南の四千万国民に送るアピール」「世界各国の国会、政府、政党に送る書簡」を発表。

▶ソ連・ナホトカ自動車隊平壤着。

▶「在日大韓キリスト教総会」代表団歓迎礼拝（平壤、鳳凰教会）——金牧師「三千里祖国を統一する歴史の日が95年には必ず到来することを祈る」。

31日 ▶断食5日間、参加者記者会見、文神父アピール発表。林代表夜9時ころ失神治療。

▶金永南、サフロンチュク国連事務次長と会見。

▶アンゴラ人民共産党・政府代表団（バイアマ国家検閲・統制担当国務兼国家安全相）平壤着。

▶政府科学技術代表団（李資方）中国に出発。

8月

1日 ▶ハンスト終結記者会見。林代表声明——「断食闘争大勝利」「8月15日障壁を越えて必ず南に戻る」。

▶朝鮮・アンゴラ党・政府代表団間会談。

▶赤十字会スポークスマン声明、12日に実務代表接触を再提案。

▶『労働新聞』論説「党の指導強化は革命勝利の決定的保証」。

▶『労働新聞』論説「米軍撤収は朝鮮の平和・統一の基本要請」。

2日 ▶朝・ソ連、ソ連領土内社会文化厚生対象建設協力・相互決済原則協定調印（モスクワ）。

▶職総中央委第18回総会、社労青中央委第15回総会、農動盟中央委第13回総会（～5日）——金主席の5月18日教示の徹底貫徹を討議。

▶金策製鉄、黄海製鉄、発電所、炭鉱、セメント、化学繊維で増産。数値制御工作機械生産基地、4月3日工場、茂山鉱山、端川地区鉱業等で生産能力拡張工事。軽

工業委傘下30余工場で近代化工事。

▶金主席、モンゴル党書記一行と会見。

▶第9回平壤国際卓球大会開幕。ニカラグア、東独、モンゴル、インドネシア、中国、ソ連、朝鮮が参加。

▶『労働新聞』論説「党事業方法改善の基本方針は抗日遊撃隊式事業方法」——金書記文獻15周年。

3日 ▶朝鮮・モンゴル間航空運輸協定調印（平壤）。

▶「八月三日一般消費財」生産増大——毎年平均20.8%増大、流通額は国営商業流通網全体の9.5%。

4日 ▶黄海南道九月山麓で革命スローガン樹木発見——金正日書記を讃えたスローガンも。

5日 ▶咸興に除草剤工場完成。

6日 ▶『労働新聞』論説「幅広い対話と協力で統一の門を開こう」——「アメリカの南朝鮮占領と内政干渉政策を終わらせ、分裂主義的盧「政権」が統一志向的な政権と替わらなければならない」。

▶『労働新聞』論説「平等と同志愛の原理の統一的具現」——金書記の指針と指導を賞賛。

7日 ▶金主席、アンゴラ党・政府代表団と会見。

8日 ▶北南スポーツ会談北側代表団長、南側に会談の早期開催をうながす。

▶軍事停戦委第450回会議、林代表の板門店通過対策を強く要求。

▶『労働新聞』論説「帝国主義の攻勢から社会主義を擁護するのは現情勢の要求」——ブッシュ発言を非難。

▶祖国平和統一委「対話の門を閉ざし、分裂と対決を追求する南朝鮮当局者の犯罪的策謀白書」発表。

▶全国仏教徒祖国統一祈願法会（金剛山表訓寺）——「南朝鮮当局者は……希代の事大売国者、一つ屋根の下でともに暮らせない唯一無二のファシスト」と説教。

9日 ▶『労働新聞』編集局論説「わが党は不敗の威力をもち革命と建設を勝利へ導く偉大な指導者」。

10日 ▶『労働新聞』論評で、南当局者の「環境会談」提案を「言語道断」と非難。

▶朝鮮学生委員会「国際青年学生団体と全世界の進歩的青年学生に送るアピール」発表、林代表の8月15日板門店通過に支持声援を求める。

11日 ▶『労働新聞』金主席が6月24日ユーゴスラビア「オスロボジニェ」紙責任主筆の質問に与えた回答を掲載。（「参考資料」参照）

▶社会主義諸国ジュニア国際陸上競技大会（5.1スタジアム）東独、ルーマニア、ブルガリア、チェコスロバキア、ポーランド、ソ連、朝鮮参加。

12日 ▶林代表記者会見。全大協学徒に送る手紙朗読。

▶『労働新聞』社説「青年の間に共産主義的美風をさらに高く発輝しよう」。

13日 ▶朝鮮囲碁協会結成と囲碁会館開館集会(平壤)。

▶平壤・鳳水教会で平和統一祈願礼拝。同日全国の家庭礼拝所で平和統一祈願礼拝。

14日 ▶林秀卿代表一行飲送平壤市民集会・宴会。

▶ソ連軍事代表团(トレチャク国防次官)平壤着。

▶国連開発計画と貿易通報活動のコンピューター化実現・「のり加工」協力合意(平壤)。

15日 ▶林代表、文神父、板門店を越えて入南。

16日 ▶ソ連軍事代表团歓迎集会(人民軍・趙明録上將軍所属部隊)。

17日 ▶『労働新聞』論評——盧泰愚の「光復節慶祝辞」は一顧の価値もないと糾弾。

▶『労働新聞』論評、林嬭・文神父連行を糾弾。

▶『労働新聞』論評「チュチュの美学観確立で共産主義的美風を発輝させよう」。

18日 ▶金主席、中国科学院代表团と会見。

▶全国スポーツ熱誠者会議(〜19日)。

20日 ▶金主席、国連工業開発機関のドミンゴ・シアソン事務局長一行と会見。(18日平壤着)。

▶『労働新聞』論説「革命の主体強化で党が果たす決定的役割」。

21日 ▶外交部スポークスマン声明、国連加盟問題への原則的立場を再確認、南の単独加盟反対。

▶林嬭・文神父弾圧糾弾平壤市民大会。

▶社労青中央委声明、南独裁集団を糾弾。

▶政府科学技術代表团(李資方国家科学技術委員長)ソ連訪問に出発。

22日 ▶金主席、バングラデシュ外相と会見。

▶祥原万年製薬工場操業式。東医薬と茶類を生産。

▶順川ビナロン労働者用高層住宅建設中、1600世帯すでに入居。

▶果物豊作——農業委果樹総局生産課長談、果物生産昨年比26%増、総生産量9万3000'、増見込み。

▶『労働新聞』社説、党員と勤労者への思想教育活動の強化を強調——「社会主義に反対する帝国主義とその手先らの悪らつな策謀はかつてなく強まっている」。

24日 ▶『労働新聞』論評——「いま南で反米自主統一は情勢発展の基本。盧一派は大勢の流れを直視し分別を持って対処すべき」。

▶韓民戦創立20周年記念平壤市報告会、崔泰福書記記念報告。

25日 ▶政務院地方工業部(省)を新設、部長に金成求を任命。

▶北南国会議員・板門店協議代表团長、第8回予備会談の9月中旬開催を再提案。

▶中国共産党幹部代表团(楊易辰中央顧問委員会委員)

平壤着。

▶イラン外務省ベシヨラティ第一次官一行平壤着。

26日 ▶朝鮮キリスト教徒連盟中央委声明。「キリスト教平壤福音大会」開催の暫定合意書妥結と関連。

27日 ▶金主席、イラン第一外務次官一行と会見。

▶『労働新聞』論説「全社会のチュチュ思想化は偉大な綱領」。

28日 ▶米・とうもろこし豊作——昨年比12% 稲数は平均200〜300本増え、穂も大きい。平安南道、咸鏡北道の多数郡で例年にない最高収穫見込み。各道でとうもろこしの穂当り粒数が昨年比40〜60粒多い。

▶政府代表团(李鐘玉副主席)リビア革命20周年行事参加のため出発(〜9月6日)。

▶『労働新聞』記念論説「朝鮮共産主義青年運動の前途を明らかにした綱領的旗じるし」——27年8月28日、金主席が朝鮮共産主義青年同盟結成。

29日 ▶『労働新聞』論説「大安の事業体系での基本は党委員会の集団指導」。

30日 ▶『労働新聞』論説「青山里方法は最も優れた大衆的指導思想と方法」。

31日 ▶新義州紡績機械工場で新型紡績機を製作。

▶軍事代表团(崔光総参謀長)中国から帰国。

▶朝鮮代表团(延亨默総理)第9回非同盟諸国首脳会議出席のためユーゴスラビアに出発。

▶『労働新聞』署名論説「帝国主義の思想文化的浸透に反対してたたかうことは革命の勝利的前進のための重要担保」——ブルジョア的「多元主義」、「多党制」提唱の「凶悪な企図」を糾弾。

9月

1日 ▶順川ビナロン連合企業所のビナロン生産系統の初工程でアルデヒド生産の報道。

▶北南高位級政治軍事会談予備会談北側代表团長が9月18日に第3回予備会談開催を再提案。北南スポーツ会談北側代表团長も第3回北南スポーツ会談の9月13日開催を再提案。

▶『労働新聞』社説「反帝自主、反戦平和、非同盟の旗を高く掲げよう」(非同盟デーにさいし)。

▶鴨緑江新義州・柳草島間に1.2km級つり橋完成。

2日 ▶『労働新聞』社説、全人民の英雄的闘争を呼びかけ——「全党員・勤労者は、いかなる複雑な情勢と環境のなかでも革命を続けて社会主義の旗じるしを固守し革命を完成しようとする党の意志を胸深く刻み、引き続き革新し前進する革命的気迫を高く発揮すべきである」。

▶『労働新聞』論説「人間改造は優先すべき重要な課題」。

3日 ▶朝鮮カトリック教徒協会中央委非常拡大会議(平壤、長忠聖堂)——林秀卿・文神父の即時釈放と平和統一を促す教徒の課題を討議。書簡、アピール文採択。

▶金正淑郡と金策市で白いツバメが現われた——4月平壤で白いかさざぎ発見に続き国が興る瑞兆。

4日 ▶金主席、学生少年宮殿で芸術サークル員と幼稚園の公演を観覧、ルイーゼ・リンゼ女史ら同席。

5日 ▶重要対象建設多数完成——金策製鉄・茂山鉱山・勝利自動車の数十の対象や二・一六炭鉱、定平鉱山、新坡鉱山、二月化学工場、南興青年化学炭酸ソーダ工場、祥原万年製薬工場、羅津—清津間混合線鉄道、元山駅舎、元山—金剛山間高速道路、金日成総合大学体育館、順川ピナロン労働者用2000余世帯住宅、数十のシリカチャート・レンガ住宅村など。

▶非同盟首脳会議第2回会議で、延総理演説。

6日 ▶86年以降全国的に約30余万人の農民が社会保障制度の恩恵を受けたと報道。

7日 ▶共和国外交部声明——米軍南朝鮮占領44周年にさいし「米軍撤収と関連したスケジュール表でも一日も早く示すべきであろう」。

▶金主席、三石区域共同農場を現地指導、徐允錫、洪成南、姜希源、徐寛熙、金昌周ら同行。

▶金主席、イタリア・ラジオ・テレビ放送会社中国駐在支局長と会見、昼食会。

8日 ▶金主席、在日同胞に教育援助費・奨学金2億1465万円(112回目)を送る。

▶金策製鉄連合企業所2段階工事竣工式。十二月十六日炭鉱生産開始。上西青年鉱山八月三十日坑操業式。南興青年化学連合企業所炭酸ソーダ工場、操業式。

9日 ▶共和国創建41周年記念中央報告大会、李鐘玉副総理記念報告。慶祝宴、延亨黙総理演説。

10日 ▶金主席、勝利自動車総合工場を現地指導、延亨黙、全秉浩、徐允錫、韓成竜ら同行。

▶祖国平和統一委声明——南独裁集団の林秀卿「捜査結果」発表(8日)は「途方もないねつ造」。

12日 ▶軍事停戦委員会第451回会議(板門店)、崔首席委員、朝鮮半島非核化で米側と協議提案。

▶『労働新聞』論説「党は革命の主体における中樞」。

13日 ▶電力工業委中小発電所指導局長談、1000余中小発電所新設、今年着工の600余対象工事仕上げ段階。

14日 ▶『労働新聞』署名論評——11日の盧泰愚「韓民族共同体統一方案」は「対決と分裂の方案」「全朝鮮人民に対する愚弄、民族に対する重大な背信行為」。

▶共和国代表団(姜錫柱外交部第一副部長)第44回国連総会出席のため出発。

▶朝鮮カトリック教徒協会中央委スポークスマン談、

「韓国正義具現全国司祭団」の北南同時ミサ発議を全面支持。

15日 ▶アジア・アフリカ保険・再保険連盟第11回総会(平壤～19日)——80余国参加、日本各社代表団参加。

▶共和国、世界エネルギー大会に加盟。

▶韓民戦中央委員会「国民に檄す」を発表——「闘争でファッション局面を開きよう！」など。

16日 ▶チェコスロバキア軍事代表団(パーツラビーク国防相)平壤着。朝鮮・チェコ軍事代表団間会談、人民武力部招宴。

▶咸興除草剤工場(二・八ピナロン内)操業式。

18日 ▶秋穀取り入れ開始、速度戦で連日数千ヘクタール進行。多収獲郡獲得運動を展開して例年にない豊作。

▶『労働新聞』東独に対する西独・ハンガリーの内政干渉を非難。

▶朝鮮労働党代表団(崔泰福)東独訪問に出発。

▶「韓民戦」中央委、当面の闘争スローガン発表——「五共」遺産を清算し光州の恨みをはらそう、・ファッション暴力を追放しよう、・全政治犯・良心犯を釈放せよ、・反盧泰愚連合戦線に立ち上がろう、・米軍撤収闘争に総奮起しよう。

19日 ▶勝利自動車総合工場の生産能力2倍化、新生産基地の工程はすべてオートメ化、ロボット化。

▶金主席、チェコスロバキア軍事代表団と会見。

▶平壤郊外・西浦養鶏場の生産が30年間に200倍(金書記が飼料原種を送り飼料問題を解決)。

20日 ▶金主席、総連第15回大会に祝賀文。

▶『労働新聞』論説「党の指導は人民政権の重要問題」——「重要なことは全政権機関に対する党と領袖の唯一的指導を徹底的に実現し、人民政権機関が党の指導を受けるようにすること」。

21日 ▶朝鮮労働党代表団(許鉄書記)社会主義国国際書記会議出席のためブルガリアへ出発(～10月1日)。

▶金正淑女史逝去40周年中央追慕会、崔光報告。

▶『労働新聞』金正淑女史逝去40周年で編集局論説「祖国の解放と朝鮮革命勝利のための闘争でうちたてた不滅の業績」。

22日 ▶党・政府幹部ら大城山革命烈士陵の金正淑女史銅像に献花。

24日 ▶金主席、中国政協会議代表団(王恩茂全国委員副主席)と会見。

▶電気デー——渭原発電所完全操業目前、順川、成川閘門発電所近く操業。中小高電所今年だけで290余完工、各地水車式発電所建設も積極推進。

▶『労働新聞』論説「帝国主義の滅亡と社会主義の勝利は歴史的法則」——金書記文獻発表2周年。

25日 ▶社会主義諸国舞踊専門家国際討論会と講習開幕(平壤), 東独, ルーマニア, モンゴル, 朝鮮, ポーランド。ソ連, ベトナム, エチオピア参加。

▶朝鮮キリスト教徒連盟代表団(李哲副委員長)日本訪問に出発。

▶日本社会党朝鮮問題特別委代表団(嶋崎譲事務局長)平壤着。

▶この1年足らずで10余の鉱山開発, 約20の鉱山大規模に改造拡張——定平地区鉱山や十月一日鉱山など多数採業, 鏡城地区で新陶磁器原料鉱山を開発, 上農地区ガラス原料鉱山や西部地区鉱山を急ピッチで開発。

26日 ▶『労働新聞』論評「『国家保安法』は撤廃されるべきだ」。

▶万寿台芸術団結成(69年9月)20周年記念報告会。

▶平安北道党委員会代表団中国遼寧省訪問に出発。慈江道親善代表団吉林省訪問に出発。

▶『労働新聞』論説「党の指導的役割を強めよう」。

27日 ▶北南赤十字実務代表接触, 芸術団・故郷訪問団交換問題, 本会談再開問題討議——10月6日続開。

▶『労働新聞』論説「民族の運命が外勢にもてあそばれるのを許さない」——南の国連「加盟」策謀糾弾。

▶駐スーダン大使に張明善を任命。

▶咸興市友好代表団上海市訪問に出発。

▶キューバ政府代表団(ルイス外国貿易相)平壤着。

▶ルーマニア, チャウシェスク大統領, 共和国軍事代表団(崔光総参謀長)と会見。

28日 ▶金主席咸鏡北道への教示貫徹清津市決起集会。

▶金主席, キューバ政府代表団と会見。

▶共和国北半部当局・政党・団体連席会議開催——金永南演説で南側に民族統一協商会議招集, 民族共同宣言発表など提案。南当局・政党・団体に送る手紙採択。

29日 ▶ルーマニア軍事代表団(ミレア国防相)平壤着。

30日 ▶中国・江沢民党総書記, 朝鮮党政府代表団(李鐘玉副主席)と会見——朝鮮人民の闘争支持を言明。

▶金主席, 中国創建40周年で祝電。

▶林秀卿釈放闘争朝鮮委員会結成, 尹基福委員長就任。

▶全国映画部門活動家大会(～10月1日)——映画普及活動で一大高揚を起す対策を協議。

▶『労働新聞』論説「『韓民族共同体統一方案』の分裂本質」——この方案は「民族の永久分裂案」。

10月

1日 ▶順川ビナロン連合企業所に25万トンの能力の塩化ビニール工場建設着工集会。

▶平壤各紙, 社説で中国創建40周年を熱烈祝賀。

▶光復街新築住宅へ5000世帯の入居開始。

2日 ▶ブルガリア, ジフコフ議長, 共和国軍事代表団(崔光総参謀長)と会見(ソフィア)。

▶『労働新聞』論評「反総連謀略騒ぎを止めよ」——日本のパチンコ・カード問題を糾弾。

3日 ▶外交部スポークスマン声明——アメリカと南朝鮮当局者は無謀な戦争騒動を直ちに打ち切れ。

▶金主席, ルーマニア軍事代表団と会見。

▶人民武力部, 中国軍事代表団(劉華清党軍事委副秘書長, 同日平壤入り)歓迎宴。劉演説で6月北京反革命暴乱平定措置に対する朝鮮党・政府の支持に感謝。

▶党・政府代表団(李鐘玉副主席)中国から帰国。

4日 ▶東独創建40周年平壤市記念集会, 金煥副総理演説——東独に対する西独当局の侵害行為と策動を非難。

▶民主カンボジア・シアヌーク大統領一行平壤着。

▶ルーマニア軍事代表団歓迎人民武力部軍人集会。

▶『労働新聞』論説「連邦制に基づき統一を実現すべきだ」。

▶『労働新聞』論説「党は人々の政治生命を見守り輝かせる」。

5日 ▶党・政府代表団(延亨黙総理)東独創建40周年記念行事出席のため出発(9日帰国)。

▶平壤一帯で, 最近抗日革命闘争時期のスローガン文献約250点, 会合場所, 露营地など, 全国各地(咸鏡南道新浦市, 両江道大牡丹郡, 平壤市江東郡, 平安南道平原郡で多数)でスローガン樹木発見数7170余本。

▶大聖製糸工場創業式(絹糸, 綿, 石鹼など生産)。

6日 ▶第2回北南赤十字実務代表接触——北側, 文牧師, 林秀卿, 文神父釈放要請。第2次芸術団・故郷訪問団交換を本会談再開時より早めたい。次回10月16日。

▶外交部, 朝中外交関係設定40周年祝賀宴(玉流館)。

▶各地農村で例年になく野菜豊作。1人当たり年間平均300kg以上の野菜を供給, 1日800g以上を消費。

▶今年, 東・西海沿岸水域に数千トンの貝, かき, なまこ, 海老, あわび, 昆布, 海苔の養殖場を新設, 87年比面積約2倍。

▶金主席, シアヌーク大統領夫妻と会見。宴会。

▶『労働新聞』論説「『連合』の名目で『二つの朝鮮』づくりを企む」——盧泰愚の「統一方案」批判。

▶延亨黙総理, ベルリンでソ連ゴルバチョフ書記長ら各国首班と会見(～7日)。帰途モスクワ立ち寄り。

7日 ▶ルーマニア共産党代表団(ストイアン書記)平壤着(～10日)。

▶朝鮮労働党・ルーマニア共産党代表団間会談。

▶金主席, 中国軍事代表団と会見。

▶朝鮮仏教徒連盟中央委スポークスマン談話——「韓国仏教宗団協議会」の漢江燃灯大法会へ北半部仏教徒招

請を歓迎、北南仏教徒代表会談を提案。

▶『隠れた英雄に学ぶ運動十周年記念中央報告会——10年間に登録された隠れた功労者は1万5500人。』

▶『労働新聞』論説「アメリカの反社会主義戦略」——その3方向は「第1に社会主義勢力に対する力の優位を實現、第2に社会主義諸国の経済技術発展に障害をつくり、第3に社会主義諸国を思想的に瓦解」。

8日 ▶金主席、ルーマニア党代表団と会見。

▶文益煥牧師、劉元號氏の釈放を祈願するカトリック祈禱会(平壤、鳳水教会)。

▶金主席労作「東医学を發展させるために」発表10周年記念全国東医学部門科学討論会平壤(～9日)。

▶寧辺絹織工場織布総合職操業式。

▶四月二十五日機械工場(咸鏡北道)操業開始。

9日 ▶金主席参席下、順川ビナロン連合企業所第一段階操業式。

▶金主席参席下、千里馬製鋼連合企業所五月十八日大型鍛造工場操業式。

▶『労働新聞』編集局論説「革命の前進とともに絶えず強化される党と人民の血縁の連携」。

10日 ▶金主席、順川ビナロン第一段階操業・千里馬製鋼五月十八日鍛造工場操業祝賀宴会(平壤、錦繡山議事堂)金主席演説。

▶『労働新聞』社説「党の指導に沿って前進するわが革命偉業は必勝不敗である」——党創立44周年に際し。

▶熙川ゴリキ合弁会社操業開始(熙川工作機械総合工場とソ連ゴリキ工作機械生産連合体間で運営)。

11日 ▶駐ラオス大使に張勇俊、駐アンゴラ大使に康淳栄を任命。

▶『労働新聞』社説「チュチェ朝鮮の威力を 轟かせた誇るべき成果」順川ビナロン第一段階操業式。

▶安州地区炭鉄連合企業所安州腐食土肥料工場操業開始。

▶『労働新聞』論説「南朝鮮はアメリカの侵略的核前哨基地」。

12日 ▶北南高位級政治軍事会談第3回予備会談、北側、名称、議題、第1回会場ソウル、随員数30人を提起。

▶文益煥牧師救援対策委員会発足、鄭浚基が委員長。

▶『労働新聞』論説「太平洋の核の暗雲が朝鮮に向かっている」——「パセックス89」軍事演習を糾弾。

13日 ▶金主席、江西区域の青山協同農場を現地指導、延亨黙、洪成南、徐寛熙、金渙、金昌周ら同行。

▶平壤市スク島で金主席10月7日現地教示貫徹市内建設者・志願者決起集会——48年南北協商会議を記念し革命史跡地、遊園地を建設。

▶平城市火力発電所着工式。

14日 ▶香山総合食料工場操業式。

▶『労働新聞』社説「革命伝統教育の強化は情勢の要求」——「革命伝統教育は党と革命の血縁を純潔に継いでいくうえで根本問題の一つ」。

15日 ▶祖国平和統一委、南朝鮮の「公安政局」一大反動攻勢に関連して「告訴状」発表。

16日 ▶第3回南北赤十字団体間実務代表接触(非公開)芸術団・故郷訪問団交換を12月8日、第11回赤十字本会談開催を12月15日で合意、訪問地、芸術団規模問題では未合意。次回接触11月8日。

▶10月上旬現在、平壤被服工場、万景台小型工作機械工場、東平壤金属建具工場、平壤建設機械工場はじめ50余工場、企業所で今年の計画を繰り上げ遂行。

▶金策製鉄連合企業所第二段階拡張工事完了。

17日 ▶『労働新聞』論評、盧泰愚訪米は親米事大の売国行為、許し難い犯罪行為と糾弾。

▶金策市火力発電所着工式。

▶『労働新聞』論説「党の指導強化は社会主義経済建設促進の基本担保」。

18日 ▶趙世雄副総理を転任に伴い解任。

19日 ▶金主席、イラン行政実務活動家代表団と会見。

▶道、市、郡人民会議員選挙11月19日実施公布。

▶政府経済代表団(金福信副総理)ソ連訪問に出発。

▶茂山鉾山連合企業所第3選鉱場着工式。

20日 ▶第3回南北スポーツ会談——統一チーム旗と選手選抜方法合意、チーム名称問題未合意、次回11月16日。

▶米シングル前國務次官補・教授平壤着。

▶祖国統一民主主義戦線中央委声明——「パチンコ疑惑」で日本当局を非難。

▶革命スローガン樹木、咸鏡北道一帯で大量発見、9月中旬現在で道内5300余点。

▶チェコスロバキア共産党代表団(ミロ斯拉フ・ザイツ書記)平壤着。党中央委歓迎宴。

21日 ▶朝鮮労働党・チェコ共産党代表団間意見交換と討議。

▶『民主朝鮮』紙署名論評「総連にたいする卑劣な政治的謀略騒ぎ」。

▶平壤各紙社説、今年計画繰り上げ遂行「総突撃戦」呼びかけ。

22日 ▶『労働新聞』、日本反動の総連破壊策動糾弾。

▶『労働新聞』論説「党と人民大衆の統一団結は革命完成の担保」。

23日 ▶米・南朝鮮の核戦争策動反対平壤市青年学生・市民糾弾大会。

▶『労働新聞』社説、社会主義の優位性と生命力、その不敗性を認識する教育事業を強化すべきである。

▶『労働新聞』論説「高く掲げるべき革命的スローガン」——金書記が示した「われわれ式に生きよう！」。

24日 ▶咸興市火力発電所着工式。

▶『民主朝鮮』紙社説「選挙を高い政治的熱意と労働の成果で迎えよう」。

25日 ▶金主席、チェコスロバキア共産党代表団と会見。

▶金永南、シグール前米国務次官補と会見。

▶朝鮮労働党・ザイル革命人民運動代表団間会談。

▶南北国会合同会議第8回協議。次回11月29日。

▶金昌周を農業委員長から解任し、白範寿を新任。

26日 ▶『労働新聞』論評——盧の「韓民族共同体統一方案」が分裂方案であるのは、米軍撤退問題と「国家保安法」撤廃問題が全く言及されていないから。

▶許鏢、シグール前米国国務次官補と会見。

▶つつじ合弁会社（平壤市被服工業総局と在日朝鮮商事の合弁）操業式。良質な服を生産。

27日 ▶『労働新聞』論説「青少年に対する革命的世界観確立の重要性」。

▶金主席、ザイル革命人民運動代表団と会見。

▶李鐘玉副主席、シグール前国務次官補と会見。

▶アーサー・ハメル元駐中国米大使、平壤着。

29日 ▶村、街、工場クリーン運動展開平壤市勤労者熱誠者会議（5.1スタジアム、7万余人）——金書記が課題教示。「全国労働者、事務員宛アピール文」「社会主義競争要綱」発表。

▶抗日革命闘争時期スローガン樹木の新切手を発行。

30日 ▶金主席、ニュージーランド社会統一党代表団と会見。

31日 ▶金主席、シアヌーク大統領誕生日祝宴。

▶朝鮮・ルーマニア政府間査証廃止協定調印（平壤）。

▶朝鮮中央通信社声明——アメリカの南朝鮮への新規ジェット戦闘機供与決定を糾弾。

11月

1日 ▶軍停委崔首席委員、「驚89」軍事演習中止を要求してアメリカ側首席委員に抗議通知文。

2日 ▶金主席、シアヌーク大統領の宿所を訪問。

▶東独との外交関係設定40周年記念集会。

▶農業生産と社会主義農村建設で新たな転換を起こす平壤市勤労者決起集会——主席の水路工事課題教示に従い来年2月中旬までに数十kmの水路工事を完了する。

3日 ▶シアヌーク大統領一行平壤出発。

▶『労働新聞』論評「不当な措置」——ポーランドの対南「外交関係」締結を批判。

▶外交部スポークスマン——11月1日、北京で第5回朝米大使館事務級接触が行われたと発表。

▶イラン議会代表団（ハディ・ガファリ議会計画・予算委員会委員長）平壤着。

4日 ▶道、市、郡人民会議代議員選挙人名簿を公布。

▶『労働新聞』社説「継承すべき降仙の労働者階級の闘争精神」。

▶中央資材総連合商社長李弼成解任、蔡圭彬新任。

5日 ▶朝鮮軍事代表団（崔光総参謀長）エジプト訪問に出発（～11日）。

▶金日成主席中国を非公式訪問（～7日）。

6日 ▶社会主義十月革命72周年平壤市記念集会。

▶金主席、社会主義十月革命72周年に際しゴルバチョフ党書記長・最高会議議長に祝電。

▶ソ連磁器・ガラス工芸展、開幕式。

▶金主席、東独クレンツ党書記長・国家評議会議長と朝独外交関係設定40周年で祝電交換。

7日 ▶平壤各紙、十月革命記念日で一斉社説。『労働新聞』社説——「十月革命とその勝利は、労働者階級の革命闘争が領袖の思想と指導によってのみ前進し勝利するとの真理を実証した」。

▶外交部スポークスマン談話——日本政府当局者による国会での「パチンコ疑惑」集中審議は自主権侵害、全朝鮮人民への許し難い冒とく。

▶道、市、郡人民会議代議員選挙立候補者推薦会議各地で開催——「金主席と金書記に忠実で祖国と人民、朝鮮の革命政権のためすべてを捧げて献身的に働く労働者、農民、勤労者を代議員候補者に推薦した」。

8日 ▶第4回南北赤十字実務代表接触（非公開）——芸術団規模と公演実況中継で未合意。

9日 ▶共和国外交部声明——非核地帯創設当事者協案を提案。三者会談を年内開催、その合意下に北南共同宣言を採択する。

▶『労働新聞』論評「日本当局は軽挙妄動するな」——パチンコ疑惑は自民党政府の綿密な政治謀略、虚偽ねつ造劇。

▶金主席、訪朝中のイラン議会代表団（ハディ・ガファリ議会計画・予算委員会委員長）と会見。

10日 ▶温泉—南洞間に新鉄道（80余km）建設、最近、現地で着工集会。

▶『労働新聞』論説「人民の生活を保証する社会主義制度の優位性」。

11日 ▶朝鮮対文協声明——共和国と総連に対する日本政府と自民党の敵視政策と謀略策謀を糾弾。

▶『労働新聞』論評「日本当局者は総連破壊の謀略を直ちに中止せよ」。

12日 ▶『労働新聞』論説「自主的かつ創造的生活を保証する人民政権」。

・13日 ▶金主席の中国非公式訪問を報道——鄧小平、江沢民と会談、楊尚昆、李鵬と対面・談話「双方は党の指導を確固と堅持し、社会主義の道に沿って引き続き前進することを表明した」。

▶第5回南北赤十字実務接触、芸術団規模で決裂。

▶『労働新聞』社説「『全党、全人民、全軍が学習しよう!』の党スローガンをさらに高く掲げて進もう」。

14日 ▶金主席中国訪問ニュースを連日テレビ放映。

▶『労働新聞』論説「統一の基本障害を度外視した偽りの『統一方案』」。

15日 ▶白頭山「正日峰」刻字から1年間に行進隊踏査者数が20余万人。

▶第4回北南高位級政治軍事予備会談——第1回本会談ソウル開催合意、本会談名称、議題、代表団構成問題は次回持ち越し。

16日 ▶万景台協同農場で14日、決算分配集会。

▶元山水産事業所で全国水産部門社会主義競争宣布集会、決議文採択、社会主義競争要綱を発表。

17日 ▶金主席、イタリア議会ピコリ下院外交委員長と会見。

▶天道教青友党崔徳新委員長逝去訃告。国家葬儀委員会を構成。

18日 ▶金主席、故崔徳新委員長の霊柩を訪れ弔問。

▶故崔徳新国葬、愛国烈士陵に埋葬。

▶平壤市万景台区七骨協同農場で決算分配集会。

19日 ▶道、市、郡人民会議代議員選挙実施——投票率99.73%、賛成率100%、2万9535人の代議員選出。

▶朝鮮労働党代表団(延亨黙総理)ルーマニア共産党第14回大会出席のため出発(〜26日)。

20日 ▶平壤—モスクワ—ソフィア間定期空路開設。

▶朝鮮労働党中央委、ルーマニア共産党第14回大会に祝賀文——「ルーマニアの現実には社会主義が資本主義に比べようもなく優れ、その前途は洋々」。

21日 ▶ペルー共和国と大使級外交関係樹立。

▶『労働新聞』盧泰愚のヨーロッパ諸国訪問を糾弾。

▶『労働新聞』、今回の選挙は党と主席を中心に一つの社会政治的生命体をなす朝鮮人民の不败の威力と社会主義制度の優位性を改めて示した。

▶『労働新聞』論説「党に従い勝利の信念もつ革命的品性」。

▶第6回赤十字実務接触、総人員571人で合意、公演回数・時間、故郷訪問団対象・対面方式等未合意。

23日 ▶政府経済代表団(鄭松男対外経済事業部長)リビアに出発。

▶政府科学技術協力代表団(金一赫科学技術委員会副委員長)ベトナムに出発。

▶『労働新聞』論説「三大革命遂行の強力な推進力」。

24日 ▶第5回南北スポーツ会談——北側選手選抜で大幅譲歩、チーム名称表記問題等で未合意。

▶『労働新聞』海部首相の民族排他的発言(「ボクがいじめをやったわけじゃない」)を糾弾。

▶『労働新聞』論説「南朝鮮の『国連加盟』企図は平和への挑戦」。

25日 ▶『労働新聞』署名論評「義理に背いた行動」——ユーゴスラビア当局の南朝鮮承認を厳しく糾弾。

▶『労働新聞』ルーマニア・チャウセスク大統領の15日同紙副主筆質問への回答全文を掲載。

▶『労働新聞』社説「党員と勤労者の共産主義教育をさらに強めよう」。

26日 ▶平壤市学生少年連合集会(15万人、メーデー・スタジアム)、村、街、学校美化運動の推進を決議。全国の学校、社労青、少年団組織に送るアピール採択。

▶『労働新聞』論説「党の指導強化こそ社会主義の道への根本担保」。

27日 ▶『労働新聞』論評「南側は姿勢を正して対話に誠意を示せ」。

▶第7回赤十字実務接触(非公開)、南側が歌劇「花を売る少女」公演を拒否し、物別れ。

▶『労働新聞』論説「南の『国連加盟』企図は分裂と緊張激化の要因」。

28日 ▶大城山遊園地整備第一段階工事が最近完了。

▶金日成総合大学教職員・学生総会、林秀卿さんを名誉学生に登録。

▶『労働新聞』論評「南朝鮮は世界最悪の人権侵害地帯」。

▶環境保護事業を発展させるための第1回平壤講習開催(〜30日)。

29日 ▶南北国会会議のための第9回協議——対話形式と議題について討議。合意なし。

30日 ▶外交部スポークスマン、アメリカ当局に三者会談提案への早期回答を促す。

▶金永南副総理・外交部長一行ルーマニア訪問に出発。

▶『労働新聞』論説「党の革命的活動方法は大眾との統一団結強化の武器」。

▶軍停委員会第452回会議——北側「核戦争の危険を除去するための当面の措置」を講じるよう要求。

▶全国労働行政活動家の忠誠の決議集会——金書記文献「労働行政をさらに改善強化するために」課題貫徹。

12月

1日 ▶金主席、ソ連ペロウソフ副首相一行と会見。

▶南北スポーツ会談実務代表接触、53の細部事項で合

意、次回12月6日。

▶駐ベルー大使に李仁春を任命。

▶『労働新聞』論説「共産主義的道德教育強化の貴重な指針」——「こんにち帝国主義者が腐敗したブルジョア生活様式を流布しようと狡猾に策動しても、わが国固有の共産主義的道德生活気風が花咲き、あらゆる不健全な資本主義的生活様式が入りこめないようになったのは、党の賢明な指導の尊い実りである」。

3日 ▶イラン軍事代表团(レザー革命防衛隊司令官)平壤着。『労働新聞』歓迎社説。朝鮮・イラン軍事代表团間会談。人民武力部宴会。

4日 ▶『労働新聞』、金書記のキューバ共産党機関紙『グランマ』社長質問への回答(10月26日)を発表。

▶金日成主席、イラン軍事代表团長と会見。

▶南北赤十字実務接触代表团長個別接触——芸術団・故郷訪問団交換と赤十字本会談が予定定期日にできなくなったが、必ず実現させることで見解の一致。

▶『国際生活』誌第11号記事「南朝鮮が国連と非同盟運動に加盟すべきだとの主張は正当化されない」。

5日 ▶『労働新聞』論評——「暴圧性と悪らつきにおいて維新独裁や『五共』軍事ファッショ独裁を凌ぐ盧泰愚『政権』の殺人暴圧支配」。

▶金主席労作「青少年に対する共産主義教育の若干の問題」発表20周年教育部門研究討論会。

▶全国青年発明・創案先駆者大会(平壤、～6日)。

▶ルーマニア、チャウシェスク大統領、金永南外交部長と会見。

▶朝鮮労働党・フランス共産党代表团間会談(パリ)。

6日 ▶『労働新聞』、金日成主席労作「共産主義教育について」(58年11月20日)を全文を掲載。

▶コムサン密営を復元・公開——スローガン樹木、たき火や炊事場跡など多数発見。

▶現在10余の大規模発電所と600余の中小型発電所を同時建設。

▶平壤一熙川間の高速道路建設中。

▶清津市で野菜温室を建設。

▶南北スポーツ会談実務接触第2回接触——団長問題で未合意、次回15日。

7日 ▶金主席、イラン軍事代表团と再会見。

▶イラン軍事代表团歓迎平壤市勤労者と駐屯軍部隊の集会。

8日 ▶『労働新聞』論説「速やか朝鮮半島非核化の三者会談を」。

▶『労働新聞』署名論評「植民地かいらいの貧弱な行脚」、盧泰愚のヨーロッパ訪問を論評。

▶金永南副総理兼外交部長一行ルーマニアから帰国。

▶『労働新聞』編集局論説「党と主席の指導のもとに1980年代を誇らかな勝利で輝かせてきた朝鮮人民の大いなる自負」。

9日 ▶朝鮮労働党親善代表团(康石崇党中央委党歴史研究所長)中国訪問に出発。

10日 ▶『労働新聞』論説「社会主義・共産主義の勝利を保証する思想的武器」——金書記のキューバ紙社長質問への回答について。

11日 ▶在日帰国同胞13名に名誉称号授与。

▶『労働新聞』論説「共産主義的教育を強めてきたわが党の大いなる誇り」。

▶『労働新聞』論評「米日に支配された南朝鮮経済」。

▶中央統計局白春興処長談——11月30日現在、全国2000余の工場、企業所が年間計画を完遂し、98%以上の水準で計画遂行中の工場、企業所は数千。

12日 ▶咸鏡南道で昨年より約16万%の穀物を増収。

▶『労働新聞』論説「経済建設を促進するための原則的要求」——金主席「人民経済の計画規律を強化し、社会主義建設で新たな高揚を起こすために」(1979年12月12日)により「計画規律」を強調。

▶『労働新聞』論評「人権暗黒社会の『六共』独裁」。

▶金正日書記、平壤市建設事業を指導——光復街2段階工事と新建設予定染浪通り、下堂通り建設模型を見て指導、「1991年までに新たに3万世帯の住宅建設」。

13日 ▶『労働新聞』論説「社会主義が勝利するのは歴史発展の法則」。

▶『労働新聞』論説「資本主義から社会主義への民族の大移動」——在日同胞の帰国実現30周年。

▶『労働新聞』社説「共産主義的に働き生活しよう」。

▶両江道で約1万本の樹皮のむかれた木、380余点のスローガン文献、500余種、200余点の革命遺物発見。

▶平壤・文綿駐車場—陵羅島—牡丹峰清流壁に全長1100mの橋と、牡丹峰下に地下道建設計画。

14日 ▶鄭浚基民族統一協商会議北側準備委員長、南側の当局、政党、団体に送る書簡を公開。

▶在日同胞の帰国実現30周年記念中央報告会。

▶朝鮮労働党代表团(李鐘玉副主席)シンバブエ訪問に出発(～27日)。

15日 ▶『労働新聞』金主席演説(1961年12月15日)「新しい経済管理体系の樹立について」を全文掲載。

▶金主席、中国駐在イタリア放送会社ビオレ支局長一行と会見、昼食会。

▶南北スポーツ会談実務代表第3回接触——諸問題で合意成立、共同事務局設置場所等で未合意、22日本会談へ持ち越し。

▶『民主朝鮮』紙論説「アメリカ帝国主義の平和攻勢

と狡猾な侵略構想」。

16日 ▶金正日書記、軽工業製品展示場を視察。

▶『労働新聞』社説「在日同胞の社会主義祖国への帰国実現30周年」。

18日 ▶平壤—熙川間高速道路、来年4月中旬までに120km余の路盤工事の基本的終了をめざし建設中。

▶楽元酸素分離機工場で超大型酸素分離機製作。

▶千里馬製鋼連合企業所に新鋼鉄工場計画。

19日 ▶日朝友好促進議員連盟代表团(久野忠治議員)平壤着。

20日 ▶金主席、パキスタン公報・放送代表团と会見。

▶南北高位級会談第5回予備会談——名称、代表团構成、随員数など合意、議案問題で未合意。

▶『労働新聞』寄稿論説「社会主義制度を強めるチュチェの経済管理体系」。

▶平城市に「金正日花」温室と平城百花園オープン。

21日 ▶故金正淑女史の回想実記「朝鮮女性運動の指導者に仕えて」を朝鮮労働党出版社から出版。

▶外交部声明——アメリカのパナマ侵攻を糾弾。

▶『労働新聞』論説「全党の思想意志の統一と団結が党強化の基本」——金書記のキューバ紙回答解説。

▶新たに発見された革命的スローガン文献に対する中央研究討論会。

22日 ▶『労働新聞』長文記事(1～2面)「帝国主義者の挑戦を退け社会主義の道へ力強く進もう」——「活路はひとえに帝国主義に反対して社会主義原則を強く固守し革命を続けること」「もし、社会主義社会で政治的多元主義と多党制を許せば、反社会主義勢力が台頭して人民大衆の政治的統一を破壊し社会主義制度を根本的に崩壊させる重大な結果をもたらす」。

▶共和国政府声明、アメリカのパナマ侵攻中止を要求し、勇敢にたたかうパナマ人民に「物質的かつ精神的に可能なすべてを尽くして支援する」。

▶第6回南北スポーツ会談——選手団名称・団長等で北側が譲歩、10項目全般的合意。南側は履行保障要求。

23日 ▶金主席、日朝友好促進議員連盟代表团久野団長、広瀬秀吉事務局長と会見。両氏に勳章授与。

▶延亨默総理、チェコ・チャルファール新首相に祝電。

▶人民軍第2回社労青活動家大会開幕(～25日)。

▶最近、ソノ山密営地(白頭山地区)を革命伝統教育拠点として建設。

24日 ▶朝鮮中央通信ルーマニア事態を初報道——チミショアラで「反政府的性格の騒擾事件」、21日にブカレストで「反政府的集会とデモ」。「このような事態によって社会秩序がひどく乱れている」。

▶天道教青友党中央委第6期第15回総会開催——「思想教育をさらに強化するために」討議。鄭信赫を委員長に選出。

25日 ▶『労働新聞』、金主席の1955年4月1日「党員の間に階級教育事業をさらに強化するために」を全文掲載。

▶金主席、人民軍第2回社労青大会参加者を祝賀。

▶金主席、パキスタン国会上下院代表团(ジャベル科学・技術担当國務相)と会見。

▶朝日漁業暫定合意書調印。

▶先鋒革命事績館開館式。

26日 ▶外交部スポークスマン声明——「われわれはルーマニア人民が選択した道を尊重し、ルーマニア救国戦線評議会をルーマニア人民の代表と認定する」。

▶朝鮮中央通信、ルーマニア事態を25日のチャウシェスク夫妻死刑執行まで報道。

▶日朝友好促進議員連盟代表团帰国を前に記者会見、久野会長、金主席を「人民の指導者、世紀の偉人」と讃える。

27日 ▶金主席、ルーマニア救国戦線評議会イリエスク議長に祝電。

▶『労働新聞』論説「社会主義労働行政の綱領的文獻」——金書記89年11月27日「労働行政活動をさらに改善強化するために」を賞賛。

▶『労働新聞』論説「帝国主義者の反社会主義策謀」。

28日 ▶『労働新聞』社説「革命教育、階級教育を強化しよう」、論説「現代帝国主義の正体を正しく見よう」。

29日 ▶朝鮮赤十字会中央委員会、ルーマニアに15万ドルの援護金(負傷者に対する医療援助のため)を送る。

▶金主席、新年に際し朝鮮総連の民主主義的民族教育のために1億4230万円の教育援助費と奨学金を送る。

30日 ▶金主席、ハベル・チェコ新大統領に祝電。

31日 ▶平壤市学生少年の迎春の集い、金主席参席。

国家最高幹部(1989年12月31日現在)

国家主席：金日成

副主席 李鐘玉, 朴成哲

中央人民委員会：金日成, 朴成哲, 吳振宇, 李鐘玉, 洪成南, 徐允錫, 玄武光, 姜希源, 趙世雄, 尹基福, 金炳律, 白範寿, 池昌益(書記長)

同 經濟政策委委員長 尹基福(88年9月2日判明)

政務院

總理 延享默(88年12月12日)

副總理 金永南(外交部長兼任), 洪成南(国家計画委委員長兼任), 金福信(輕工業委委員長兼任), 鄭浚基, 姜希源(4月18日), 金昌周, 金允赫, 金渙(化学工業部長兼任), (趙世雄は10月18日解任),

国家計画委員会 洪成南(兼任)

国家建設委員会 金応相

国家科学技術委員会 李資方

外交部長 金永南(兼)

農業委員会 白範寿(10月25日)

採掘工業委員会 趙昌徳

電力工業委員会 李知賛

資源開発部 全河哲(88年6月)

原子力工業部 崔学根

建設部 趙哲俊(88年6月2日)

建材工業部(4月5日改組) 朱栄勲(4月5日)

林業部(88年9月3日) 金在律(88年9月3日)

金属工業部 崔満頭

機械工業部 桂享淳

電子・自動化工業委員会(88年新設)

白世雲(88年12月15日)

船舶工業部 李錫

交通委員会 李吉松

鉄道部 朴容錫

化学工業部 金渙(兼)(88年6月2日)

輕工業委員会 金福信(兼)(88年6月2日)

水産委員会 崔福延

人民奉仕委員会 孔鎮泰

保健部 李鐘律

通信部 金昌浩

労働行政部 李在潤(88年11月26日)

教育委員会 崔基龍(7月11日)

高等教育部 不明

普通教育部 李鐘洙

文化芸術部 張徹

貿易部 金達玄(兼)(88年10月7日)

対外經濟委員会 金達玄(88年6月2日)

対外經濟事業部 鄭松男

合営工業部(88年11月26日新設) 蔡希正(88年11月26日)

商業部 緯章根

都市経営部(1.19新設) 李鉄奉(6月17日)

地方工業部(8月25日新設) 金成求(8月25日)

財政部 尹基貞

社会安全部 白鶴林

科学院 金敬峰

国家体育委員会(6月29日改組) 金裕淳

政務院直轄

中央資材総連合社 蔡圭彬(社長)(11月4日)

中央銀行 鄧成沢(総裁)

中央統計局 申京植(局長)

政務院事務局 鄭文山(局長)

地方党・行政機構

行政經濟指導
委員長 党責任秘書兼
人民委員長

平壤市 不明 崔文善(4月24日)

開城市 韓光林 金基善

南浦市 張仁錫 朴勝日

咸鏡南道 金英温 洪時学

咸鏡北道 金榮潤 姜成山

平安南道 金義淳 徐允錫

平安北道 廉在万 趙世雄(10月25日判明)

黄海南道 金昌植 文成述

黄海北道 金享鼎 康賢洙(4月24日)

慈江道 金重千 李奉吉

两江道 金英得 冉基淳

江原道 南勇岩 林享九

金日成主席の1989年「新年の辞」

親愛なる同志のみなさん！

同胞兄弟姉妹のみなさん！

私は、希望に満ちた新年、1989年を迎えて、共和国北半部の全人民と以南の兄弟、在日同胞をはじめとする海外のすべての同胞に、熱烈な祝賀と暖い挨拶を送ります。

私はまた、兄弟の社会主義諸国人民と非同盟諸国人民をはじめ世界のすべての進歩的人民に、新年の祝賀と挨拶を送ります。

1988年は、わが人民にとって永遠に忘れられない歴史的な1年でした。昨年、党の指導のもとにわが人民は、

帝国主義と反動の大々的な反共和国、反社会主義キャンペーンをそのつど粉碎し、英雄的なたたかいを展開して、共和国の尊厳と栄誉をさらに輝かせました。

共和国の威信を傷つけ、わが人民を孤立させようとする敵の策動が頂点に達した時、党中央委員会は全党と全人民に、白頭の革命精神をもって敵の反革命的攻勢に革命的攻勢で立ち向かい、革命と建設で一大高揚を起こすことを呼びかけました。党と革命に限りなく忠実なわれわれの党員と勤労者たちは、党中央委員会の書簡を高く掲げ、歴史的な二百日戦闘を力強くくり広げて、社会主義建設のあらゆる分野で誇らしい成果を達成し、輝かしい偉勲を立てました。

昨年、わが人民がくり広げた二百日戦闘は、労働者、農民ばかりか人民軍軍人や事務員、それに青年学生にいたるまでがみな立ち上がり、党と革命に対する忠実性と献身性を遺憾なく発揮した全人民的な大建設戦闘でした。二百日戦闘の炎のなかで、革命の首都・平壤市と全国のいたる所にわが人民の英知と党の胆力を示す大記念碑的創造物が次々と建設され、第3次7カ年計画の遂行で決定的意義を持つ動力基地、金属基地、化学工業基地の建設をはじめ膨大な規模の重要対象が成功裏に進められました。こうして国の経済的威力をさらに強め、日まに発展し変貌していく祖国の姿をいっそう輝かせたうえ、社会主義建設で新しい転換の契機を開きました。

わが人民は、社会主義建設で輝かしい偉勲を立てた勝利者としての高い誇りと自負をもって、朝鮮民主主義人民共和国の創建40周年を盛大に祝いました。共和国創建40周年行事を通じてわれわれは、この40年間、党の指導のもとにわが人民が刻苦奮闘して建設した社会主義の優越性と威力を示し、内外の敵との止むことのないたたかいのなかでもつねに党と運命をともにしてきた労働者、農民、勤労インテリをはじめ全人民の盤石の統一団結を誇示しました。これは、党の指導にしたがって進む道に必ず勝利と栄光があるという、わが人民の信念をさらに固くさせ、反帝自主の道に進む世界の進歩的人民を大きく励ましました。

昨年、高まる革命的雰囲気の中で行なわれた全国英雄大会は、わが人民の革命の歴史に特筆されるべき重要な出来事でした。全国英雄大会は、英雄的な闘争の伝統を継承し、チュチェの革命偉業をあくまで完遂しようというわが人民の固い決意と、いかなる風が吹こうとも革命の旗を引き続き高く掲げて進もうというわが党の確固不動の意志を全世界に宣布しました。

われわれのすべての党員と勤労者は、「すべての人が英雄的に生き、たたかおう」という全国英雄大会の呼びかけを高く掲げて新二百日戦闘を力強く展開し、わが党

の継続革命の思想を具現し続けようという大衆的英雄主義の輝かしい模範を創造して、われわれの前進運動に新たな拍車をかけました。

英雄的なたたかいと偉勲でつづられた過ぐる1年は、わが人民こそいつも党の呼びかけに限りなく忠実な人民であり、いかなる難関や試験も勇敢に克服し逆境を順境に転換して奇跡を創造する革命的人民であることを、あらためてはっきり実証しました。

私は、昨年、わが党のまわりに一つの思想、一つの意志で固く団結し、党の戦略的構想と意図をりっぱに貫徹したわれわれの英雄的な労働者階級と農民、兵士、勤労インテリをはじめ全人民に熱い感謝を送ります。

われわれは、創造と建設の誇らしいたたかいで全国が引き続きわき立っているなか、新しい決意と信念にあふれて新年を迎えています。

今年、われわれの前には、高まる革命的氣勢を引き続き堅持して思想、技術、文化の三大革命をさらに力強く推し進め、社会主義大進軍の運動を積極的に進めることでわが国の社会主義制度の優越性を全面的に発揮させる、という栄えある課題が提起されています。

最近行なわれた党中央委員会第6期第14回総会は、こんにち技術革命と社会主義経済建設を早めるうえで鍵となる工作機械工業と電子、自動化工業をすみやかに発展させるための正確な方向と方途を示しました。工作機械工業と電子、自動化工業を発展させ、生産工程をオートメ化、ロボット化し、FMS(フレキシブル生産システム)を広く導入すれば、わが国の経済発展で新しい質的な飛躍が起きるでしょうし、困難で骨の折れる労働から完全に解放されて、ゆたかで幸福な生活を心ゆくまで送りたいというわが勤労者の世紀的な念願が実現されることになるでしょう。

われわれは、すでに築かれた機械工業のしっかりした土台と科学技術力量を効果的に動員、利用して、人民経済の需要に応じて工作機械の種類とをすみやかに増やし、その質を高めながら、現代的な数値制御工作機械とロボットを大々的に生産しなければなりません。これとともに、電子、自動化工業の物質的、技術的土台をしっかりと築いて、集積回路やコンピューターをはじめとする各種の電子要素と自動化、計器、器具の生産を画期的に伸ばさなければなりません。

軽工業は、社会主義経済建設で当面して力を注ぐべき重要な部門です。われわれは、今年を軽工業の年と定め、党の軽工業革命の方針を貫徹する活動で新しい転換をもたらさなければなりません。

今年は、軽工業部門に対する投資を増やして供給事業を改善し、軽工業工場の現代化を積極的に進めなければ

なりません。軽工業部門では、紡績工業、日用品工業、食料工業をはじめ軽工業工場をフル稼働させ、製品の質を決定的に高め、人民の好みと社会主義生活様式に合う各種の軽工業製品をより多く生産し、供給しなければなりません。

第3次7カ年計画の重要目標を達成するための基本建設を引き続き力強く進めなければなりません。

国の経済発展と人民生活の向上で重要な意義をもつ順川ビナロン連合企業所建設と沙里院カリ肥料連合企業所建設に優先的に力を注いで早く完成させ、発電所建設や炭鉱、鉱山建設、金属基地建設をはじめとする重要対象建設を積極的に推進しなければなりません。重要対象建設を担当している人民軍軍人とすべての建設者は、英雄的な闘争精神と創造力を高く発揮し、すすんだ施工方法を積極的に取り入れ、建設のスピードをさらに高めて建設対象の操業開始期日を最大限に繰り上げなければなりません。人民経済の各部門では、重要対象建設で要求される設備や資材を優先的に生産、保障し、みな立ち上がって重要対象建設を力強く支援しなければなりません。

今年は、わが党が社会主義農村テーゼを発表して25周年にあたる年です。われわれは今年、農村技術革命を力強く進め、チュチェ農法の要求を徹底的に貫徹し、農業生産でより大きな前進を遂げることで、社会主義農村テーゼの偉大な生命力をふたたび誇示しなければなりません。

今年、わが国の首都・平壤で第13回世界青年学生祭が開かれるのは、わが人民にとって大きな慶事となります。全世界の進歩的人民の深い関心と声援の中で開かれる今回の祭典は、世界5大陸の青年学生が一堂に会し、青春の遠大な理想と抱負を分かち合い、世界の平和と人類の明るい未来のために肩を組んでたたかう新しい世代の青年たちの連帯と団結の威力を示威する盛大な国際的舞台となるでしょう。

われわれは、祭典に参加するために訪れるすべての代表と賓客を、思想と信仰、人種と民族にかかわらずあたたかい友情をもって親切に迎え、彼らが何の不便もなく祭典行事に自由に参加できるようあらゆる条件と便宜を保障しなければなりません。今回の祭典を通じてわれわれは、人間をもっとも大事にするチュチェ思想が具現されたわが国で、青年学生と人民が社会の真の主人として自主的に創造的な生活を思う存分満喫しているようすを見せ、わが人民と世界の進歩的人民の間の友好と団結を、いっそう強化すべきであります。

今年、われわれの前に提起された課題は、全党、全国、全人民が立ち上がって遂行すべき膨大な革命課題です。革命課題は、革命的な方法によってのみ成功裏に遂行で

きます。革命の主体である人民大衆の革命的熱意と創造力を最大限に発揮して提起された革命課題を遂行するのは、わが党が一貫して堅持している革命的方法です。

指導活動家は、党と革命の前に担った重い責任を自覚して、大衆の中に深く入り、政治活動を力強くくり広げて、すべての党員と勤労者を党が打ち出した革命課題を遂行するたたくいに積極的に奮い起こさなければなりません。指導活動家は、高い革命性と旺盛な気迫を持ち、率先垂範して大衆を導き、大安の事業体系の要求どおりに経済組織事業を遺憾なく組まなければなりません。

われわれは今年、社会主義建設のあらゆる分野でもう一度大高揚を起こし、千里馬に速度戦を加えた氣勢で力強く進んできた1980年代の最後の年を歴史的な勝利の年として輝かしく飾らなければなりません。

1988年は、北と南の全人民がわが国情勢発展の基本的な流れを祖国統一の方向に転換させた歴史的な年でした。

わが党と共和国政府は、昨年を民族の和解と団結を実現し祖国統一の新しい転換的契機をもたらす意義深い年にするために、南北連席会議提案と国会連席会議提案、そして三者会談提案と高位級政治軍事会談提案、スポーツ会談提案、学生会談提案をはじめ各種の合理的な協商提案と平和発議を打ち出し、その実現をめざして成しうるかぎりの努力を尽くしました。

昨年、南朝鮮人民は、われわれの真摯な平和統一の努力に歩調を合わせ、反米自主統一のスローガンを前面に提起して、まる1年、祖国統一をめざすたたかいを粘り強くくり広げました。南朝鮮の勇敢な青年学生は、過酷なファッショ弾圧にも屈せず「ヤンキー・ゴーホーム、南北は統一へ!」「行こう 漢拏から、来たれ 白頭から、会おう 板門店で!」というスローガンを高く掲げ、年頭から南北学生会談と国土統一大行進を実現するために力強くたたかい、労働者、農民をはじめ知識人、宗教人を含めた各界各層の人民も民主主義的な闘争組織を結成し、共和国北半部の兄弟との接触と対話を主張して大衆的な統一運動を活発に展開しました。

今日、南朝鮮で祖国統一をめざすたたかいは、少数の運動ではなく多数の運動に転換され、一部の階層に限られた運動ではなく各界各層を網羅した大衆の運動に拡大しており、単純な統一論議で終わるのではなく祖国統一の三大原則に基づいて連邦制統一を実現するためのたたかいへと発展しています。これは、南朝鮮での統一運動で新しい発展段階に入り、南朝鮮情勢で重大な変化が起きたことを示すものです。

もし昨年、内外の分裂主義勢力の妨害策動がなかったなら、南朝鮮全域を席卷したこの民族挙げての統一運動は疑いなく共和国北半部人民の統一努力と連合し、全民

族的な統一救国の大行進に転換されていたでしょうし、統一の前途に新しい画期的な局面を開いていたでしょう。

現在、南朝鮮で「二つの朝鮮」を追求する分裂主義勢力が歴史の流れに挑戦していますが、全般的な情勢は依然として統一をめざして確実に前進しており、こうした情勢の発展を主導するのは分裂主義勢力ではなく統一の主体である人民大衆であります。

祖国の北と南で、ともに民族の分裂にピリオドを打ち、統一を成し遂げようとするこの大きな流れは、もはやだれも止めることができないし、逆もどりさせることもできません。

今日われわれは、国の自主的平和統一に対する新しい信念と期待を持って新年を迎えています。

われわれは、祖国統一のために良好に発展している現情勢の局面を積極的に推し進め、今年は必ず国の平和を保障し平和統一を早めるうえで実質的な前進を達成しなければなりません。

北と南は何よりも、政治軍事的対決状態を解消する効果的な措置を講じることで、一日も早く相互の信頼と団結の突破口を開かなければなりません。

われわれがすでに表明したように、南北間の先鋭な対決状態を解消せずには互いに誤解と不信をなくすることができず、信義ある対話も行なえず、祖国統一と関連したいかなる問題も成功裏に解決できません。われわれは、緩和の新しい趨勢にそって過去の対決観念から脱し、相手側を刺激し情勢を緊張させることをしてはならず、不信を助長して衝突を誘発させるすべての要因を大胆に取り除かなければなりません。

われわれはこうした念頭から、当面の政治軍事的対決状態を解消する具体的な方案をすでに南朝鮮側に提案したことがあります。

南朝鮮当局がわれわれのこうした努力に応じて新たな政策転換を行なう用意があるなら、最少限、今年はチーム・スピリット合同軍事演習を中止するという態度でも明らかにすべきでしょう。

われわれは今年また、国の統一問題を解決する合理的な方途について、民族的な合意を達成しなければなりません。

祖国統一は、遠い将来のことではなく解決を待つ現実的な課題であります。わが国で平和を保障し、統一を実現するのは、互に関連した一つの過程であり、この両者の間にはいかなる過渡的時期もありえません。祖国統一問題を全国的範囲で一つの制度を樹立する問題と見なし、複雑な「段階」を設定しながらその前途を遠慮視するのは非現実的なことであり、それは事実上、統一を望まず民族の切実な念願に背を向けることであります。

われわれには、北と南の思想と制度が互いに異なるわが国の具体的現実にもとづいて統一問題を解決しうるりっぱな原則として、すでに双方が合意し、世界が公認した自主、平和統一、民族大団結の三大原則があり、この原則を具現した現実的かつ合理的な統一方途として、早くからわれわれが打ち出した高麗民主連邦共和国創立案案があります。高麗民主連邦共和国方案は、わが国の現実的条件のもとで祖国統一問題をもっとも早く解決できる最善の方途であります。

南朝鮮の政界、社会界の人士の間でも、連邦制方式で祖国を統一しようという主張が出ており、南朝鮮当局も今日に至っては連邦制統一の方式に背を向けられなくなりました。

われわれはこうした実情から、連邦制統一方案が民族的合意の基礎となりうることを確信しながら、これを真摯に協議するため近い時期に平壤で、北と南の各党、各派、各界各層の意思を代表しうる指導級人士で南北協商会議を開催することを丁重に提案します。このためわれわれは、南朝鮮の民主正義党、平和民主党、統一民主党、新民主共和党の各総裁と金寿煥枢機卿、文益煥牧師、白基琬先生を平壤に招請する次第であります。

南北指導級人士の政治協商会議は、現条件においてもっとも容易に民族の意思を結集しうる民族的対話の場であり、統一の方途に対する民族的合意を達成しうる合理的方法であります。この政治協商会議の枠内で、北と南の指導級人士は、多角的な会談だけでなく双務的な対話も交わせるでしょう。

われわれは、南朝鮮の指導級人士が建設的な統一方案を持って平壤を訪れるなら彼らを歓迎するでしょうし、彼らが示したいいかなる提案についてもともに虚心坦懐に協議するでしょう。

南北最高位級会談に重大な意義を付与しているわれわれは、その実現のための条件や雰囲気を整えるために、引き続き粘り強い努力を傾けるでしょう。

今日「二つの朝鮮」でっち上げ策動に反対してたたかうことは、わが民族の前に提起されている差し迫った課題であります。

「二つの朝鮮」でっち上げ策動は、南朝鮮の地を引き続き侵略的な軍事基地として、共産主義防波堤として利用しようという米・日・南朝鮮間の国際的な共謀結託の産物であります。これが許されるなら、国の分裂が固定され、南朝鮮はアメリカと日本の二重の支配から脱け出せなくなるだろうし、帝国主義侵略勢力が南朝鮮に残っているかぎり、朝鮮半島はいずれにしても外勢の対決政策の犠牲とならざるをえないでしょう。

われわれは、「二つの朝鮮」に分裂させられて、民族

の運命を外勢にもあそばされる愚かなことを絶対に許してはなりません。

祖国統一問題を取り巻く対決は、南北両地域間の対決や思想、制度上の対決ではなく、統一路線と分裂路線、平和路線と戦争路線、愛国路線と売国路線の対決であります。祖国の自主的平和統一を志向する北と南のすべての政治勢力は、平和、統一、愛国の民族的理念のもとに固く団結して、内外の分裂主義勢力の「二つの朝鮮」でっち上げ策動を粉砕する民族挙げてのたたかいを力強くくり広げなければなりません。

アメリカは、旧態依然として「二つの朝鮮」政策を追求するのではなく、祖国統一の気運を抑えられない趨勢となっている朝鮮の現実を直視し、それに合わせて対朝鮮政策を変えるべきであり、そうした用意の表れとして、まず、われわれが提案した三者会談に一日も早く応じなければなりません。

北と南の全朝鮮同胞は、遠からず訪れるであろう祖国統一のその日を、確信を持って展望し、反米救国と自主統一をめざす聖なる愛国闘争をいっそう力強く展開していかなければならないでしょう。

今日全般的な国際情勢は、自主、平和、親善の道にそって発展していますが、国際舞台では依然として進歩と反動間の対立とたたかいが続けられています。

社会主義諸国の積極的な平和発議と世界の平和愛好人民のたたかいによって、国際的環境で次第に緩和の雰囲気がつくられていますが、帝国主義者は力の政策を捨てておらず、人民の自主性をじゅうりんし、平和を破壊する道へ引き続き進んでいます。帝国主義者は、あらゆる手段と方法をすべて動員して社会主義を抹殺しようと策動しており、社会主義の前哨戦で革命的な旗を高く掲げて進む国々に対していっそう悪らつに攻撃を加えています。

帝国主義者が社会主義の発展を阻み資本主義の道に後戻りさせようとするのは、反歴史的かつ反人民的な策動であり、愚かな妄想であります。人類社会が資本主義から社会主義に発展するのは、歴史のたがえることのない法則であり、ひたすら社会主義の道にそって進むことでのみ、自主的に、平和的に暮らそうとする人類の理想を実現させることができます。帝国主義者の策動にもかかわらず、今日社会主義はアジアとヨーロッパで、ラテンアメリカとアフリカでしっかり守られています。社会主義が前進途上でぶつかるあらゆる障害と難関を克服して引き続き前進し、全世界的な範囲で完全に勝利するのは疑う余地もありません。

われわれは、社会主義の旗を誇り高く掲げ、帝国主義者と反動のあらゆる攻撃と非難から社会主義を擁護固守

するために屈することなくたたかうでしょうし、平和と社会主義の東方の哨所をしっかりと守っていくでしょう。

帝国主義者の支配と略奪の政策に対処して反帝自主勢力を強化するためには、非同盟運動を引き続き発展させなければなりません。わが党と共和国政府は、非同盟諸国人民と団結して帝国主義者の干渉や分裂、離間策動を粉碎し、政治、経済、文化の各分野で南南協力を拡大、発展させ、今年ベオグラードで開かれる第9回非同盟諸国首脳会議が非同盟運動の原則と理念にそって成功裏に行われるよう積極的に努力するでしょう。

われわれは、民族的解放と社会的進歩を成し遂げ、世界の平和と安全を守ろうとするすべての国の人民のたたかいを力強く支持するでしょうし、自主性を擁護する世界のすべての国の人民との友好協力関係をいっそう強化発展させるでしょう。

帝国主義者が虚勢をはって悪あがきしていますが、真理はわれわれの側にあり、われわれの勝利は確定的であります。みながチュチェ思想の革命的旗を高く掲げ、社会主義に対する自負心と革命する人民の高い誇りを持って新たな勝利に向けて力強くたたかきましょう。

図 一般消費財の生産で新たな転換を起す問題を討議 (党中央委員会第6期第16回総会に関する報道, 1989年6月10日)

総会は6月7日から9日まで開かれた。

朝鮮労働党中央委員会総書記の金日成主席が総会を司会した。

総会には「党の軽工業革命方針を貫徹して一般消費財の生産で新たな転換を起すために」についての議案が上程された。

党中央委員会の朴南己書記が報告し、多数の同志が討論に参加した。

金日成主席が結論を述べた。

総会はこれまで軽工業の発達で達成した誇らしい成果を総括し、党の軽工業路線を貫徹するために提起される重要な課題を討議した。

総会は党の指導のもとに軽工業の発達で大きな成果を達成し、一般消費財の生産を画期的に増大させるゆるぎない土台を築いたことを誇り高く指摘した。

総会は党が設立当初から人民生活向上を活動の最高原則に掲げ、人民に豊かで文化的な生活をもたらすための軽工業の建設を賢明に組織、指導してきたことについて指摘し、次のように強調した。

党の賢明な指導によって解放後、廃墟から始まったわが国の軽工業は、歴史的に受け継がれた立ち遅れを完全

に一掃し、紡績、食料加工、履物、日用品をはじめとする各工業部門を完備した、主体的で総合的な大衆消費財の生産基地に建設された。

今日、わが国の軽工業は人民の衣食住に必要なすべての軽工業製品を自力で円滑に生産保障する強力な軽工業に成長発展した。われわれは強力な軽工業を創設して人民生活を絶えず高め、わが国社会主義制度の威力をさらに高めて社会主義・共産主義建設を力強く促進できるようになった。

総会は今日、すでに収めた成果に基づいて軽工業を新たな高い段階へ発展させて、一般消費財の生産で画期的な転換を起こすべき、登れ高い闘争課題が提起されていると強調し、次のように指摘した。

われわれは、すでに築かれた経済的潜在力と党の軽工業革命方針をさらに徹底的に貫徹してわが国の軽工業を世界的な水準に引き上げるべきであり、一般消費財の生産を大々的に増やして商店に良質で多様な商品がさらにあふれるようにしなければならない。われわれは全党、全国、全人民を総動員して党の軽工業路線を貫徹することにより、軽工業の発展で決定的な転換をもたらすべきである。

総会は、今日軽工業の発展で堅持すべき中心課題について次のように指摘した。

軽工業発展の中心課題は、すでに築かれた軽工業の強固な土台を効果的に利用し、軽工業工場の近代化を促進してわが国の軽工業を一段階発展させることにより、一般消費財に対する人民の需要をさらに円滑に保障することである。

総会は一般消費財の生産で新たな転換を起こすための具体的な課題を提起した。

総会は紡績工業の発達に力を注いで既存の紡績工場をフル稼働し、紡績設備を近代化して第3次7カ年計画の最後の年である1993年に15億本の織物生産目標を達成することで、最も進んだ国の隊列に入るようにしなければならないと指摘した。

総会は織物生産の増大で重要なことは、国内の繊維に依拠して紡績工場を発展させ、各種良質の織物を多様に生産することであると強調するとともに、われわれのビナロンでもって色彩の美しい各種の織物を生産して衣服をビナロン化するという党の方針を貫徹するうえで転換を起こすべきであると指摘した。

総会は、人民の衣服を多様なものにするにはニット化すべきであり、履物生産を科学化して各種の履物を質的に高めるようにしなければならないと指摘した。

総会は食品加工工業を発展させて美味で栄養価の高い食品の増産について強調するとともに、既存の工場を技術

改造してこの数年内に食料加工生産を3.2倍に高めるべきであると指摘した。

総会は日用品工業に力を注いでその生産をこの数年内に2.5倍に高めるべきであると指摘した。

総会は軽工業工場を近代化する課題と、一般消費財の種類を増やしその質を決定的に高める課題を提起した。

総会は一般消費財の質を高めるたたかいを積極的に進め、2～3年以内に全般的な軽工業製品の質を世界的水準に引き上げるようにすべきであると指摘した。

総会は化学工業を発展させて軽工業原料の生産を決定的に高め、軽工業の科学技術を発展させ、技術者養成事業を強化する課題を提起した。

総会は党の軽工業革命方針を貫徹するための経済組織活動を改善強化する課題を提起した。

総会は主体的な社会主義経済管理体制であるテアン(大安)の事業体系を堅持し、その要求に合わせて生産指導と技術管理を改善して設備管理、資材管理、労力管理、財政管理を組織し、企業管理を正規化、規範化して既存の設備と資材、労力で各種の消費財をより多量に、より立派に生産すべきであり、一般消費財の量と種類を増やし質を高められるよう規定と細則をさらに完成しなければならないと指摘した。

総会は軽工業を近代化し、その能力を高める対象建設を長期的な展望のもとに進めることについて指摘した。

総会は軽工業部門で輸出基地をしっかりと築き、加工貿易と合併、合作を立派に行なうための組織事業を綿密に行なわなければならないと指摘した。

総会は軽工業部門に対する党的指導を改善強化する課題を提起した。

総会は全党、全国、全人民が軽工業を発展させるたたかいに立ち上がって、党の軽工業革命方針を貫徹することで社会主義建設を促進し、人民生活を高めるうえで新たな転換を起こすものとの確信を表明した。

総会は当該の決定を採決した。

4 ユーゴスラビアの『オスロボジェニエ』紙責任主筆が提起した質問にたいする金日成主席の回答(抜粋、1989年6月24日)

(前略)

問 今日非同盟諸国が直面している問題の大部分は、運動が創始され発展してきた以前の時期に比べると多くの相違点があることを明白に知ることができます。経済発展と債務問題が今日何よりも緊急な問題であるとの意見が多く提起されています。あなたは、この問題のより成果的な解決のために、第9回首脳会議で何をなすべき

であり、ご自身どのような活動に優先権を付与すべきだと考えますか。

答 今日少なからぬ非同盟諸国と発展途上国が経済的自立を達成できず、新しい社会の建設で一連の経済的難関に直面しているのは、帝国主義者の新植民地主義政策と不公平な経済秩序が依然として持続していることと関連しています。帝国主義者は狡猾な新植民地主義政策と旧来の国際経済秩序に依拠して発展途上諸国の天然資源と労働の結実を略奪しています。帝国主義者が実施し、強要している保護貿易主義政策とかれらの不公平な貿易関係によって、発展途上諸国の対外債務は日ごとに増大し、すでに1兆3000億ドルを超えました。発展途上諸国と発展した国々の貧富の差はさらに増大しており、世界的な規模で富益富、貧益貧の現象が深まっています。

発展途上諸国が今日の経済的難関から抜け出し経済的独立を達成するためには、不公平な現国際秩序を一掃し、新しい公正な国際秩序を樹立しなければならず、そのためには南南協力を積極的に発展させなければなりません。帝国主義者は立ち遅れた貧しい国々の人民に独立と繁栄を贈ることは決してないということを歴史は示しています。発展途上諸国はお互いにも有無相通ずることによって、集団的に経済発展の活路を開拓しなければなりません。

発展途上諸国は境遇と志向の共通性によって南南協力の発展に共に利害関係をもっています。現実には南南協力を発展させる可能性と潜在力は大変大きいものがあります。発展途上諸国が集団的自力更生の原則と完全な平等、互惠の原則にもとづいて南南協力を発展させれば、不公平な現国際経済秩序を正し、新しい社会の建設で直面している経済的難関を克服し、次第に経済的自立を達成することができます。

これまが非同盟諸国首脳会議や南南協力に関する平壤閣僚会議をはじめとする国際会議では、南南協力を発展させるためのりっぱな決議が採択され、具体的な行動綱領が作成されました。問題は共同の発議と努力によって作成されたこれらの決議と行動綱領を実践に移し、それが円滑に履行されるようにすることです。

現在、深刻な国際的問題となっている発展途上諸国の対外債務問題についていえば、それは債務国と債権国が双務的または多務的な協商を通じて、発展途上国に自立的民族経済を建設して、債務を償還しうることが作り出されるまで債務償還機関を延期し、その間利子を凍結する方向で解決されるべきがあります。

今年開かれる第9回非同盟諸国首脳会議では、今日非同盟諸国や発展途上諸国が直面している切迫した問題に鑑みて国際経済関係分野で新しい公正な秩序を確立し、これまで多くの国際決議で採択された南南協力と関連す

る決議と行動綱領を履行するための、より積極的な対策を討議することが必要であると考えます。

わが国はこれまで南南協力を発展させるために多くの努力を傾け、この分野で一定の経験を積みました。共和国政府は今後も発展途上諸国との緊密な連係のもとに、南南協力をより全面的に拡大発展させるために積極的に努力するでしょう。

(中略)

問 朝鮮民主主義人民共和国で遂行されている第3次7カ年計画は十大展望目標の遂行に基礎を置いています。貴国の発展計画を見ると、人民生活の水準を高める問題に大きな力を注ぐことが強調されています。その実現のための活動がどのように進められているかについてお答え願えますか。

答 わが党と共和国政府は人民の物質文化生活を絶えず高めることを自身の活動の最高原則とし、その実現のために積極的にたたかっています。もちろん、帝国主義と直接に対峙して社会主義を建設しているわが国の実情で、党と国家が人民の生活を全面的に責任を負って保証し、絶えず高めることはたやすいことではありません。しかし、われわれは情勢の要求から重い軍事的負担を負っている条件で、いつも人民の福祉増進のための活動を第一におき大きな力を注いでいます。

わが党と共和国政府の正しい路線と人民的施策により今日わが人民は食衣住の心配を知らず、みな平等に幸せな生活を送っています。人民の生活上の要求は日増しに高まっており、したがって人民生活を高めるうえで際限がありません。われわれは今後、社会主義建設が進むに従い人民の生活を社会主義的要求にそって絶えず高めようと思います。

現在、われわれが遂行している第3次7カ年計画は、国の経済的威力をさらに強化し、人民の生活水準を画期的に高めるための雄大な経済建設計画であります。

われわれは第3次7カ年計画期間に人民の食衣住問題をさらに円満に解決する目標を立てており、その実現をめざし農業と水産業、軽工業と化学工業を発展させ現代的な住宅を多く建設することに力を注いでいます。

現在、わが国では党の遠大な計画に従い30万haの干拓地開墾と総合的な大化学工業基地である順川ピナロン連合企業所建設、沙里院カリ肥料連合企業所建設をはじめ、一連の重要対象物建設が力強く推進されており、水産業を現代化、化学化するための活動が活発に繰り広げられています。国の経済発展と人民生活の向上で重要な意義を持つ重要対象物建設が完工し、水産業の物質的技術的土台が強化されれば、第3次7カ年計画で予見した1500万トンの穀物生産目標と15億kgの生地生産目標、1100

万のの水産物生産目標を達成でき、そうなればわが国で食料問題はきわめて高い水準で解決できます。

勤労者の住宅問題を解決するための目標も成功裏に実現されています。勤労者の積極的なたたかいにより平壤市をはじめ各都市に現代的な住宅や各種文化施設、サービス施設が建設されており、都市ばかりでなく農村でも住宅建設が力強く推進され、セントラル・ヒーティング化とガス化が広く実現されています。

人民生活を画期的に高めるための第3次7カ年計画の目標は困難な課題ではありますが、われわれはそれを必ず遂行できるものと確信しております。朝鮮人民は国家と社会のために働くことがとりもなおさず自らのためであるということ深く自覚しているので、主人としての態度を持って社会主義建設で献身的な創意性をいかに発揮しています。これはわれわれがいかなる困難な課題もゆうに遂行しうる、ゆるぎない保証となっています。第3次7カ年計画が遂行されれば、朝鮮人民は他に劣らない良い暮らしをするようになるでしょう。

問 朝鮮を一つの国家に統一するうえで過去よりも難関が少なくなったと言えますか。さらに貴国が一貫して追求している目的は何ですか。あなたは近づくアジア体育競技大会が、朝鮮の北と南のスポーツマンが一緒になってより立派に協力し活動できる機会になると考えますか。

答 今日全般的な情勢は朝鮮人民の祖国統一偉業にとって有利に発展しています。祖国統一にたいするわが民族の熱望はかつてなく盛りあがっており、南朝鮮の愛国的な青年学生と各階層の人民は反米自主化、反ファシオン民主化、祖国統一をめざすたたかいを激しく繰り広げています。また世界の進歩的な人民が朝鮮人民の祖国統一偉業を積極的に支援してくれています。それゆえに、われわれは朝鮮の統一が遠い将来のことだとは考えていません。

しかし、祖国の自主的平和統一を実現するための朝鮮人民の前途には依然として大きな障害と難関が横たわっています。祖国の統一を実現するうえで主な障害は「二つの朝鮮」をつくって朝鮮の分裂を永久化しようとする内外の分裂主義者の策謀であります。朝鮮人民は決して分裂主義者の望むとおり北と南に分かれて暮らすことはできないし、南朝鮮がアメリカの永遠の植民地軍事基地

となるのを絶対に許すことができません。わが民族にとって分裂は従属と亡国の道であり、統一のみが独立と繁栄の道であります。外勢によって強要された民族分裂の悲劇を終わらせて北と南を一つに統一し、統一した祖国で民族の自由な発展と繁栄を達成しようとするのは朝鮮人民の確固不動の意志であります。

国の統一を実現するうえでわが党と共和国政府は自主、平和統一、民族大団結の三大原則を堅持しています。祖国統一の三大原則は全朝鮮人民の自主的志向と根本要求を集大成した民族共同の統一原則であり、北と南が共同で合意し世界に宣言した統一綱領であります。

祖国の統一を自主的に、平和的に、民族大団結の原則にもとづいて実現するための最も現実的で合理的な方途は、われわれが朝鮮労働党第6回大会で示した高麗民主連邦共和国を創立することであると認めます。

解放後今日まで、40余年も朝鮮の北と南では互いに異なる制度が存在し異なる思想が支配しています。このような状況のもとで北と南の対決と衝突を避けて祖国統一を平和的に実現するには、併呑したり併呑されることなく、一方が他方を圧倒したり圧倒されない共存の原則にもとづいて二つの制度を容認し、二つの自治政府を連合する方法で一つの統一国家を形成する道しか他の道はないと考えます。高麗民主連邦共和国は民族共同の要求と利益を基本とし、思想と制度を超越して民族の団結を実現する統一国家の最も合理的な形態であります。最近、南朝鮮の政界と社会界の人士の間でも連邦制形式で祖国を統一しようとの主張がなされており、今日では誰も連邦制統一方式を無視できなくなっています。

共和国政府と朝鮮人民は、世界の進歩的人民の支持声援のなかで自主、平和統一、民族大団結の三大原則にもとづき高麗民主連邦共和国を創立して祖国を統一するたたかいを引き続きねばり強く繰り広げるでしょう。

われわれは来年行なわれる第11回アジア競技大会に北と南が統一チームを構成して参加することを発議し、その実現に向けて努力しています。北と南が統一チームとしてアジア競技大会に参加すれば、わが民族の英知と統一意志を世界の人民の前で誇示することになり、民族の和解と団結をはかり北と南の協力と交流を発展させるうえで貢献することになるでしょう。

(後略)

主要統計 朝鮮民主主義人民共和国 1989年

第1表 年央人口（推定）

第2表 農業人口（推定）

第3表 土地利用（推定）

第4表 穀物生産の推移

第5表 主要食糧作物の生産（推定）

第6表 漁獲高（推定）

第7表 経済計画期別の工業生産増加率

第8表 各年の工業生産増加率の推移

第9表 主要鉱工業生産（推定）

第10表 財政規模の推移

第11表 国防費支出の推移

第12表 国家予算歳出の部門別状況

第13表 主要国別貿易額（推計）

（使用記号：一該当なし，…不明，0 ゼロ・極少）

第1表 年央人口（推定）

（単位：万人）

1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
1,713	1,758	1,803	1,848	1,895	1,942	1,990	2,038	2,088	2,139	2,190

（出所） UN, *Monthly Bulletin of Statistics*.

第2表 農業人口（推定）

（単位：1,000人）

	総人口	農業人口	経済活動人口	農業従事者	比率(%)
1970	13,892	7,333	5,908	3,118	52.8
1975	15,853	7,574	6,812	3,255	47.8
1980	18,025	7,715	7,838	3,355	42.8
1985	20,385	7,764	9,084	3,460	38.1
1987	21,371	7,735	9,615	3,480	36.2

（出所） FAO, *FAO Production Yearbook*.

第3表 土地利用（推定）

（単位：1,000ha）

	総面積	農地	耕地	果樹その他	牧草地	森林	その他	灌漑面積
1980	12,054	2,240	2,150	90	50	8,970	781	1,050
1982	12,054	2,270	2,180	90	50	8,970	751	1,060
1984	12,054	2,312	2,220	92	50	8,970	709	1,060
1985	12,054	2,362	2,270	92	50	8,970	659	1,070
1986	12,054	2,392	2,300	92	50	8,970	629	1,150

（出所） FAO, *FAO Production Yearbook*.

第4表 穀物生産の推移

（単位：万トン）

	1978	1979	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
目標	880	950	…	…	1,000	…	…	…	…	…
実績	900	…	950	…	1,000	…	…	…	…	…

（出所） 各年度国家予算報告。

第5表 主要食糧作物の生産（推定）

（単位：1,000トン）

	米	大 麦	小 麦	とうもろこし	粟	こ り ゃ ん	オート麦	穀類合計*	じゃがいも	さつまいも
1979～81	4,970	1,059	380	2,133	447	136	137	8,649	1,535	374
1984	5,570	500	640	2,600	500	170	170	10,230	1,700	450
1985	5,800	571	730	2,680	535	180	185	10,745	1,850	470
1986	6,000	600	790	2,750	545	190	187	11,148	1,900	485
1987	6,200	625	800	2,900	560	196	195	11,564	1,950	494
1988	6,350	630	...	2,950	575	200	198	11,872	1,975	...

（注） * その他の穀類を含む。

（出所） FAO, *FAO Production Yearbook*, 1985, および 1987; FAO, *Quarterly Bulletin of Statistics*, 1989, Vol. 2, No. 3.

第6表 漁 獲 高（推定）

（単位：1,000トン）

	1981	1982	1983	1984	1985	1986
漁 獲 高	1,500	1,550	1,600	1,650	1,700	1,700
内 水 域	80	85	90	100	110	100
海 域	1,420	1,465	1,510	1,550	1,590	1,600

（出所） UN, *Statistical Yearbook For Asia and Pacific*, 1988.

第7表 経済計画期別の工業生産増加率

経 済 計 画 期	工業総生産額 年平均増加率 (%)	基 準 年 度 に 対 す る 倍 数 (倍)		
		総 生 産 額	生産手段生産	消費財生産
戦後復旧3カ年計画（1954～56年）実績	41.7	2.8	4.1	2.1
5カ年計画（1957～60年）実績	36.6	3.5	3.6	3.3
7カ年計画（1961～70年）実績	12.8	3.3	3.7	2.8
6カ年計画（1971～76年）実績	16.3	2.5	2.6	2.4
第2次7カ年計画（1978～84年）実績	12.2	2.2	2.2	2.1
第3次7カ年計画（1987～93年）目標	(9.6)	1.9	1.9	1.8

（注） 1977年, 1985年, 1986年は「調整の年」として除外されている。カッコ内は基準年度に対する倍数に基づく試算。

（出所） 公式発表数字に基づいて作成。

第8表 各年の工業生産増加率の推移

(%)

1979	1980	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
15	17	16.8

（出所） 金日成主席の各年度「新年の辞」による。

第9表 主要鉱工業生産（推定）

	単 位	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987
〈鉱産物〉								
無煙炭	1,000トン	36,000	36,500	38,000	38,000	39,000	39,500	39,500
褐炭, 亜炭	"	10,000	10,500	11,000	11,000	12,000	12,500	12,500
鉄 鉱 (Fe 含有量分)	"	3,250	3,250	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200
銅 鉱 (Cu ")	"	15	15	15	15	15	15	15
鉛 鉱 (Pb ")	"	110	95	75	110	110	110	110
亜鉛鉱 (Zn ")	"	140	140	140	140	180	180	225
タングステン鉱 (WO ₃ ")	ト ン	2,200	2,200	500	1,000	1,000	1,000	1,000
銀	"	50	50	50	50	50	50	50
金	"	5	5	5	5	5	5	5
マグネサイト	1,000トン	1,901	1,901	1,901	1,901	1,901	2,000	2,000
りん鉱	"	550	500	500	500	500	500	500
〈製造業製品〉								
窒素肥料 (N 成分)	1,000トン	600	588	608	620	630	640	...
りん酸肥料 (P ₂ O ₅ ")	"	130	130	130	132	135	137	...
ガソリン	"	650	700	750	800	850	900	900
コークス	"	3,000	3,300	3,400	3,400	3,500	3,500	3,500
セメント	"	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	...
銃 鉄	"	5,000	5,300	5,500	5,700	5,800	5,800	5,800
粗 鋼	"	5,500	5,800	6,100	6,500	6,500	6,500	6,500
銅	"	22	22	22	22	22	22	22
鉛	"	65	60	60	95	95	95	95
亜 鉛	"	120	120	120	120	180	180	210
〈エネルギー〉								
電 力	100万kWh	36,000	40,000	41,000	45,000	48,000	50,000	50,200

(出所) UN, *Industrial Statistics Yearbook 1987*, Vol. II (Commodity Production Statistics 1978-1987) より作成。

第10表 財政規模の推移

(単位: 100万ウォン)

年 度	歳 入	増加率 (%)	歳 出	増加率 (%)	財 政 収 支	歳出に占める 国防費比率 (%)
1979(決算)	17,477.90	11.5	16,972.60	15.1	505.30	15.1
1980(決算)	19,139.23	9.5	18,836.91	11.0	302.32	14.6
1981(決算)	20,684.00	8.1	20,333.00	7.9	351.00	14.8
1982(決算)	22,680.00	9.6	22,203.60	9.2	476.40	14.6
1983(決算)	24,383.60	7.5	24,018.60	8.2	365.00	...
1984(決算)	26,305.10	7.9	26,158.00	8.9	147.10	14.6
1985(予算)	27,383.60	4.1	27,383.60	4.7	—	14.5
(決算)	27,438.87	4.3	27,328.83	4.5	110.04	14.4
1986(予算)	28,481.54	3.8	28,481.54	4.2	—	14.1
(決算)	28,538.50	4.0	28,396.10	3.9	142.40	14.0
1987(予算)	30,307.80	6.2	30,307.80	6.7	—	13.8
(決算)	30,337.20	6.3	30,008.51	5.9	270.51	13.2
1988(予算)	31,852.10	5.0	31,852.10	5.9	—	12.2
(決算)	31,905.80	5.1	31,660.90	5.2	244.90	12.2
1989(予算)	33,550.70	5.2	33,550.70	6.0	—	12.1

(出所) 各年度国家予算報告より作成。

第11表 国防費支出の推移

(単位:100万ウォン)

	1984年度決算	1985年度決算	1986年度決算	1987年度決算	1988年度決算	1989年度決算
国防費*	3,819.07	3,970.62	3,975.45	4,182.48	3,862.63	4,005.95
歳出中の比率(%)	14.6	14.5	14.0	13.8	12.2	12.0
前年比増加率(%)	...	4.0	0.1	5.2	-7.6	-4.2

(注) *公表された歳出中の比率より算出したもの。

(出所) 各年度国家予算報告より作成。

第12表 国家予算歳出の部門別状況 (前年比増加率)

	1986年度	1987年度	1988年度		1989年度	
	決 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
歳出総額	3.9%	5.9%	5.9%	5.2%	6.1%	5.4%
人民経済発展費	5.6%	7.3%	7%	6.5%	6.1%	5.8%
基本建設		8.7%			9%	7%
採掘工業	} (膨大な投資)					} 8%
石炭						
その他鉱業						
電力工業			(大きな力)	(大きな力)	8%	
金属工業					8%	7%
機械工業					16%	(大きな力)
化学工業	140%					
建材工業						
軽工業	水産加工業とあ わせ 17.3%				13%	
農業	20%		8%	(巨額の資金)	7%	6%
水産業			7.5%			
交通運輸			7.4%	20%	(前年よりはる かにふやす)	(多くの資金)
大自然改造						
社会文化施策費	2%		6.2%	5.5%	6.1%	5.2%
教育	5.8%	5.8%		5.2%		
科学研究	科学技術発展費 1.3%	同 32%	1.4倍	科学事業費 35%	(前年より大幅 にふやす)	
文化	2%	1%				} (改善強化)
保健		4.3%		5.6%		
住宅建設						
国防費	-0.1	5.2%		-7.6		-4.2

(出所) 各年度国家予算報告による。国防費は歳出に占める比率より計算。なお、かっこ内の表現は、同報告で数字が示されない
年に使用されていたもの。

第13表 主要国別貿易額 (推計)

(単位: 100万米ドル)

	輸 出 (F O B)					輸 入 (C I F)				
	1984	1985	1986	1987	1988	1984	1985	1986	1987	1988
合 計	1,311.7*	1,277.4*	1,313.3*	1,471.6*	1,756.5*	1,681.0*	2,035.2*	2,057.3*	2,508.8*	3,126.8*
社 会 主 義 国	809.0*	825.3*	941.8*	957.4*	1,179.9*	847.2*	1,249.2*	1,518.4*	1,778.6*	2,375.3*
ソ 連	447.9	485.1	642.0	682.7	887.3	467.9	864.1	1,186.5	1,391.4	1,921.7
中 国	247.7	222.5	255.1	214.8	212.2	248.8	262.9	280.9	304.8	379.9
ボ ー ラ ン ド	18.4	19.3	20.3	24.3	29.2	23.2	24.3	25.5	30.7	36.8
チ ュ コ ス ロ バ キ ア	19.9	34.6	23.9	33.7
東 ド イ ツ	24.0	25.7	24.0	25.7
ブ ル ガ リ ア	19.0	30.0
ハ ン ガ リ ー	4.3	5.4	5.2	12.6	21.1	4.1	5.5	4.3	26.2	5.4
ル ー マ ニ ア	18.2	18.2	19.2	23.0	27.6	14.4	20.2	21.2	25.5	30.6
ユ ー ゴ ス ラ ビ ア	2.5	...	1.0	0.9
キ ュ ー バ	9.6	12.5	10.9	11.8
先 進 工 業 国	278.3	229.2	235.9	330.9	377.8	385.1	375.1	364.9	503.2	467.5
日 本	131.1	160.9	154.3	217.7	293.2	279.5	274.4	237.7	237.7	263.0
西 ド イ ツ	135.0	56.2	63.9	94.4	41.1	24.9	27.0	42.8	139.6	43.9
フ ラ ン ス	3.4	3.9	7.5	8.6	9.3	14.8	8.6	10.6	29.7	16.7
イ タ リ ア	1.5	1.0	2.1	1.7	2.6	10.0	14.4	18.4	17.6	20.6
ス ベ イ ン	1.8	2.2	2.1	3.4	3.9	0.3	2.7	1.5	4.9	4.1
オ ー ス ト リ ア	3.2	0.2	0.3	0.7	11.2	6.4	9.5	3.7	5.6	20.7
ス イ ス	0.1	0.2	0.1	0.6	1.3	8.1	3.1	5.7	3.5	5.6
イ ギ リ ス	0.8	2.6	0.0	0.9	1.3	4.4	3.6	0.0	3.5	6.1
ス ウ ェ ー デ ン	0.4	0.5	0.7	0.8	1.1	3.5	1.3	2.5	5.0	2.5
オ ー ス ト ラ リ ア	0.1	0.2	0.9	0.2	0.2	23.8	24.5	30.5	40.1	47.7
そ の 他	0.9	1.3	4.0	1.9	12.6	9.4	6.0	11.5	16.0	36.6
発 展 途 上 国	224.4	222.9	135.6	183.3*	207.9*	448.7*	410.9*	174.0*	227.0*	284.0*
香 港	21.2	18.3	20.1	28.9	28.0	52.5	55.6	82.1	117.2	134.5
タ イ	2.7	10.3	7.3	9.5	28.8	0.2	9.8	14.2	4.8	5.8
マ レ ー シ ア	0.8	0.4	1.8	0.1	16.0	12.9	1.4	1.4	3.2	5.9
シンガポール	4.5	6.1	7.5	21.5	56.9	26.0	24.9	26.7	31.3	80.8
インドネシア	11.0	2.8	3.9	15.9	8.7	17.8	14.7	4.1	5.4	14.4
パングラデシュ	10.6	19.7	19.2	11.1	17.4	0.2	5.1	0.1	2.8	2.7
イ ン ド	24.4	25.7	26.9	32.3	38.8	4.1	4.4	4.6	5.5	6.6
イ ラ ク	2.7	2.4	1.9	2.1	2.3
ク ウ ェ ー ト	97.1	77.7	0.0	312.5	281.3	0.0
サウジアラビア	7.3	3.3	1.2	0.1	0.1	0.9	...	0.3	2.0	2.1
イエメン・アラブ	6.7	7.0	7.4	8.8	10.6
エジプト	0.1	13.3	0.1	0.2	0.2	1.6	0.7	18.9	22.7	27.3
ジンバブエ	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.3	0.7	3.0	3.9
そ の 他	35.1	34.3	38.2	52.7	...	19.6	12.7	20.9	29.1	...

(注) 相手国の貿易統計に基づく推計。東ドイツは輸出入合計しか発表しないため輸出、輸入が均衡しているものと仮定して按分した。輸出は、FOB、輸入は CIF に IMF、DOT 方式で調整済み。*は不明(…)を除いた合計。

(出所) IMF, *Direction of Trade Statistics Yearbook, 1989*。ただしソ連は『ソ連東欧貿易調査月報』1990年2月号、チェコスロバキア、キューバは UN, *International Trade Statistics Yearbook, 1986*。東ドイツは *Statistisches Jahrbuch der Deutschen Demokratischen Republik, 1986*。